

第2章 前提条件の整理

2.1 各種関連資料の整理	2-1
2.1.1 本町の概要	2-1
2.1.2 事業対象地の整理	2-36
2.2 周辺地域及び対象地の分析	2-48
2.2.1 分析の観点	2-48
2.2.2 周辺エリア及び全国の観光動向	2-50
2.2.3 周辺地域の分析	2-57
2.2.4 対象地の分析	2-85
2.2.5 敷地分析結果	2-99
2.3 現状と課題の整理	2-100
2.3.1 周辺エリアの現状と課題	2-100
2.3.2 小豆島ふるさと村の現状と課題	2-101
2.4 コンセプト・整備方針の整理	2-102
2.4.1 コンセプトの検討	2-102
2.4.2 整備基本方針の検討	2-107
2.5 事業対象区域の設定	2-108
2.6 需要圏域・利用者層及び利用者数の設定	2-109
2.6.1 需要圏域の設定	2-109
2.6.2 利用者層の設定	2-112
2.6.3 利用者数の設定	2-118
2.7 ゾーニング及び機能の整理	2-132
2.7.1 ゾーニング設定	2-132
2.7.2 各ゾーンに整備する施設の検討	2-133
2.8 各ゾーンの空間構成及び整備水準	2-137
2.8.1 各ゾーンの空間構成	2-137
2.8.2 整備水準の設定	2-141
2.8.3 各ゾーンにおける整備イメージの整理	2-142
2.9 全体整備基本計画図	2-146

2.1 各種関連資料の整理

2.1.1 本町の概要

(1) 位置

1) 小豆島及び小豆島町の位置

小豆島は香川県高松港からフェリーで約 1 時間、関西（大阪）から約 3 時間に位置する離島である。小豆島には小豆島町と土庄町がある。



図 2.1-1 小豆島の位置図

2) 小豆島ふるさと村の位置

小豆島ふるさと村は小豆島町に位置する。池田港から車で約 5 分、土庄港から車で約 18 分の立地である。周辺道路では現道の拡幅や新規バイパスが計画されている。



図 2.1-2 小豆島ふるさと村の位置

(2) 地勢

土地利用の状況は以下のとおり。山林が最も多く、約 50 km²で町内の約半分を占める。

表 2.1-1 土地利用の状況

■土地利用の状況（令和3年4月1日現在）

（単位：km²、％）

区分	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	
					面積	構成比
田	1.62	1.60	1.60	1.59	1.58	1.7%
畑	7.56	7.52	7.52	7.49	7.43	7.8%
宅 地	3.62	3.62	3.63	3.63	3.66	3.8%
池 沼	0.33	0.33	0.33	0.33	0.33	0.3%
山 林	49.43	49.43	49.38	49.40	49.39	51.7%
雑 種 他	2.30	2.31	2.32	2.29	2.36	2.5%
そ の 他	30.73	30.77	30.81	30.86	30.84	32.3%
計	95.59	95.59	95.59	95.59	95.59	100.0%

【税務課】(概要調書等報告書 第2表)

出典：小豆島町勢要覧 2021 資料編

また、気象概況は以下のとおり。最高気温は9月が最も高い。

表 2.1-2 気象概況

■気象概況（令和2年）

（単位：℃、mm、m/s）

月	区分	気温			降水量	平均風速
		平均	最高	最低		
令和2年		16.9	37.8	-0.1	1,046.0	2.0
1月		8.4	16.8	1.6	53.0	2.2
2月		7.9	17.8	-0.1	26.5	2.2
3月		10.6	21.5	1.7	89.5	1.9
4月		12.7	23.0	4.4	135.5	2.3
5月		19.4	28.5	10.9	60.5	1.9
6月		23.2	31.2	16.6	137.5	1.6
7月		25.0	33.8	19.8	250.5	1.8
8月		29.0	36.8	23.2	3.5	1.7
9月		25.1	37.8	16.3	104.0	1.9
10月		18.4	27.1	9.1	147.5	1.9
11月		14.4	25.3	6.7	26.5	1.9
12月		8.4	16.5	1.1	11.5	2.5

【気象庁各種データ】

出典：小豆島町勢要覧 2021 資料編

(3) 人口

1) 小豆島町の人口

小豆島町の世帯数と人口の推移は以下のとおり。令和2年度の総人口は約1万3千人である。人口は年々減少がみられる。階級別の人口は男女ともに70～74歳が最も多い。

表 2.1-3 小豆島町の世帯数と人口の推移

■世帯数と人口の推移(各年10月1日現在)

(単位:世帯、人、%)

区 分	昭和45年	昭和50年	昭和55年	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	令和2年
世 帯 数	6,621	6,705	6,806	6,786	6,689	6,950	6,830	6,772	6,716	6,411	6,160
人 口 総 数 (a)	23,448	22,519	22,167	21,433	20,455	19,700	18,303	17,257	16,152	14,862	13,870
0歳から14歳 (b)	5,457	4,828	4,527	4,012	3,438	2,881	2,427	2,009	1,651	1,351	1,238
15歳から64歳	15,091	14,400	14,019	13,447	12,653	11,668	10,300	9,490	8,625	7,375	6,500
65歳以上 (c)	2,900	3,291	3,621	3,974	4,364	5,151	5,576	5,758	5,860	6,136	6,117
年少者人口比率 (b)/(a)	23.3	21.4	20.4	18.7	16.8	14.6	13.3	11.6	10.2	9.1	8.9
高齢者人口比率 (c)/(a)	12.4	14.6	16.3	18.5	21.3	26.1	30.5	33.4	36.3	41.3	44.1

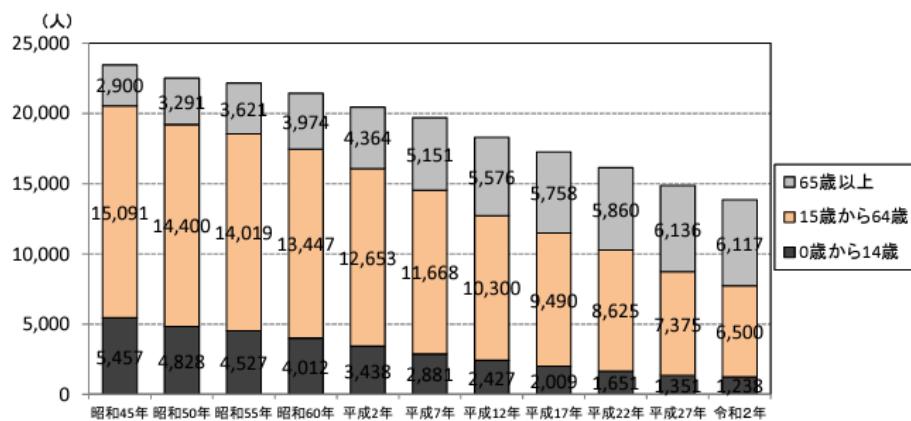
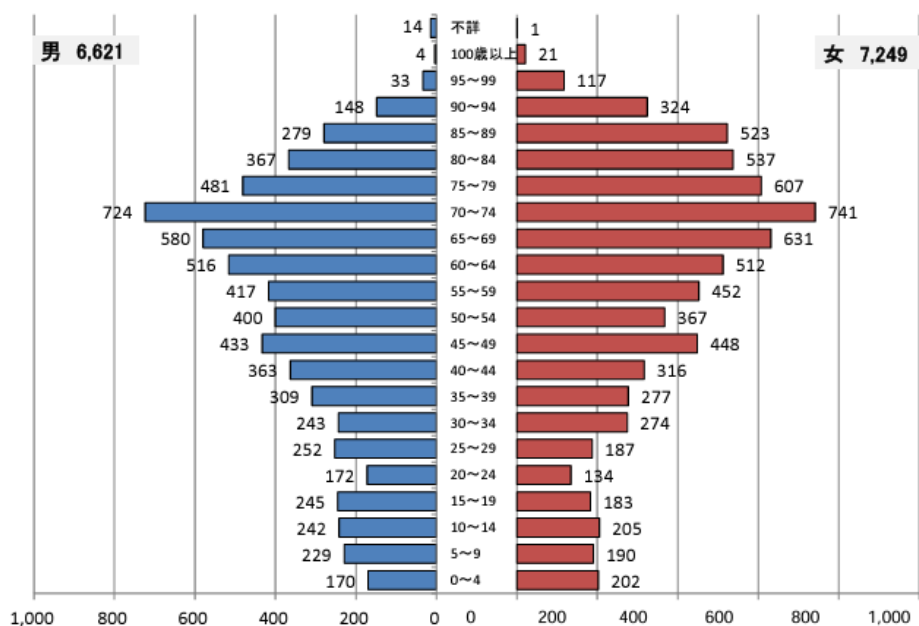


図 2.1-3 世帯数と人口の推移

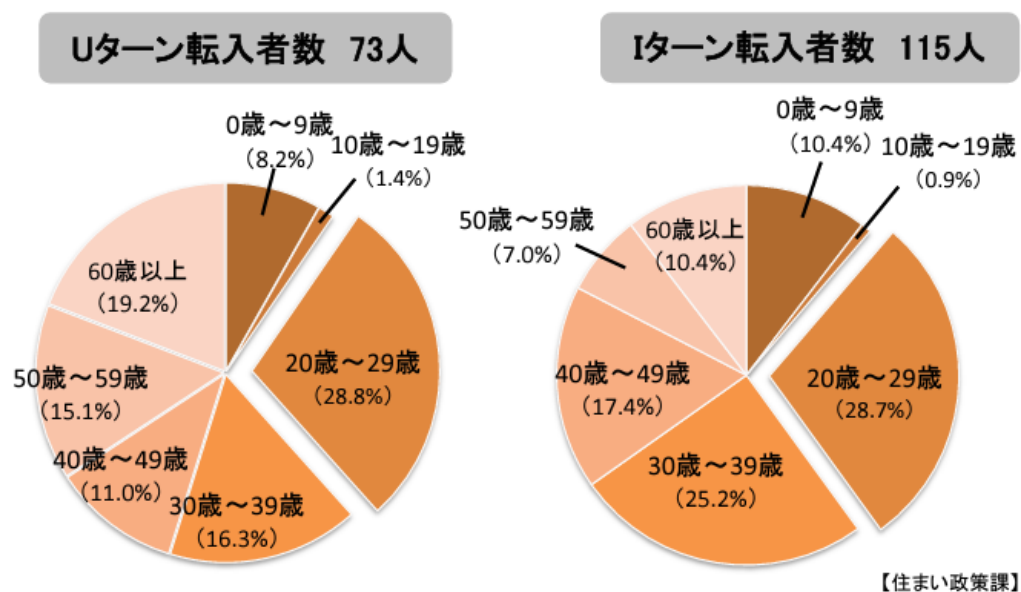


出典：小豆島町勢要覧 2021 資料編

図 2.1-4 階級別人口

2) 年齢階層別年間転入者数

年齢階層別の転入者は以下のとおり。Uターン転入者よりIターン転入者の方が多い。
また、どちらも20代の転入が最も多い。



出典：小豆島町勢要覧 2021 資料編

図 2.1-5 年齢階層別転入者数

(4) 産業

1) 産業別就業人口

産業別就業人口は以下のとおり。第一次産業では農業が、第二次産業では製造業が、第三次産業ではサービス業が最も多い。

表 2.1-4 産業別就業人口

■産業別就業人口(15歳以上)						【国勢調査】	
産業別		就業人口(人)		構成比(%)		平成22年国勢調査に対する 平成27年国勢調査増減	
		平成27年	平成22年	平成27年	平成22年	就業人口(人)	構成比(%)
第一次産業	農 業	260	268	3.91	3.73	△ 8	0.18
	林 業	2	0	0.03	0.00	2	0.03
	漁 業	102	140	1.53	1.95	△ 38	△ 0.41
	計	364	408	5.47	5.67	△ 44	△ 0.20
第二次産業	鉱 業	26	27	0.39	0.38	△ 1	0.02
	建設業	454	510	6.82	7.09	△ 56	△ 0.27
	製造業	1,710	1,958	25.70	27.23	△ 248	△ 1.53
	計	2,190	2,495	32.92	34.70	△ 305	△ 1.78
第三次産業	電気・ガス・水道業	44	50	0.66	0.70	△ 6	△ 0.03
	運輸・通信業	392	477	5.89	6.63	△ 85	△ 0.74
	卸・小売業	943	1,092	14.17	15.19	△ 149	△ 1.01
	金融・保険業	62	80	0.93	1.11	△ 18	△ 0.18
	不動産業	16	33	0.24	0.46	△ 17	△ 0.22
	サービス業	2,271	2,261	34.13	31.44	10	2.69
	公務	341	280	5.13	3.89	61	1.23
	計	4,069	4,273	61.16	59.42	△ 204	1.74
分類不能		30	15	0.45	0.21	15	0.24
総計		6,653	7,191	100.00	100.00	△ 538	-

出典：小豆島町勢要覧 2021 資料編

産業別人口の推移は以下のとおり。例年第三次産業の就業人口が最も多いが、全産業において就業人口が年々減少している。

表 2.1-5 産業別人口の動向（昭和 45 年からの推移）

■産業別人口の動向(各年10月1日現在)										(単位:人)
区 分	昭和45年	昭和50年	昭和55年	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年
第一次産業就業人口	2,324	1,538	1,197	1,152	878	783	584	500	408	364
第二次産業就業人口	4,140	4,128	4,259	4,108	3,903	3,956	3,325	2,821	2,495	2,190
第三次産業就業人口	5,201	5,323	5,304	5,127	5,018	5,064	4,551	4,511	4,273	4,069
総数	11,665	10,989	10,760	10,387	9,799	9,803	8,460	7,832	7,176	6,623

【国勢調査】

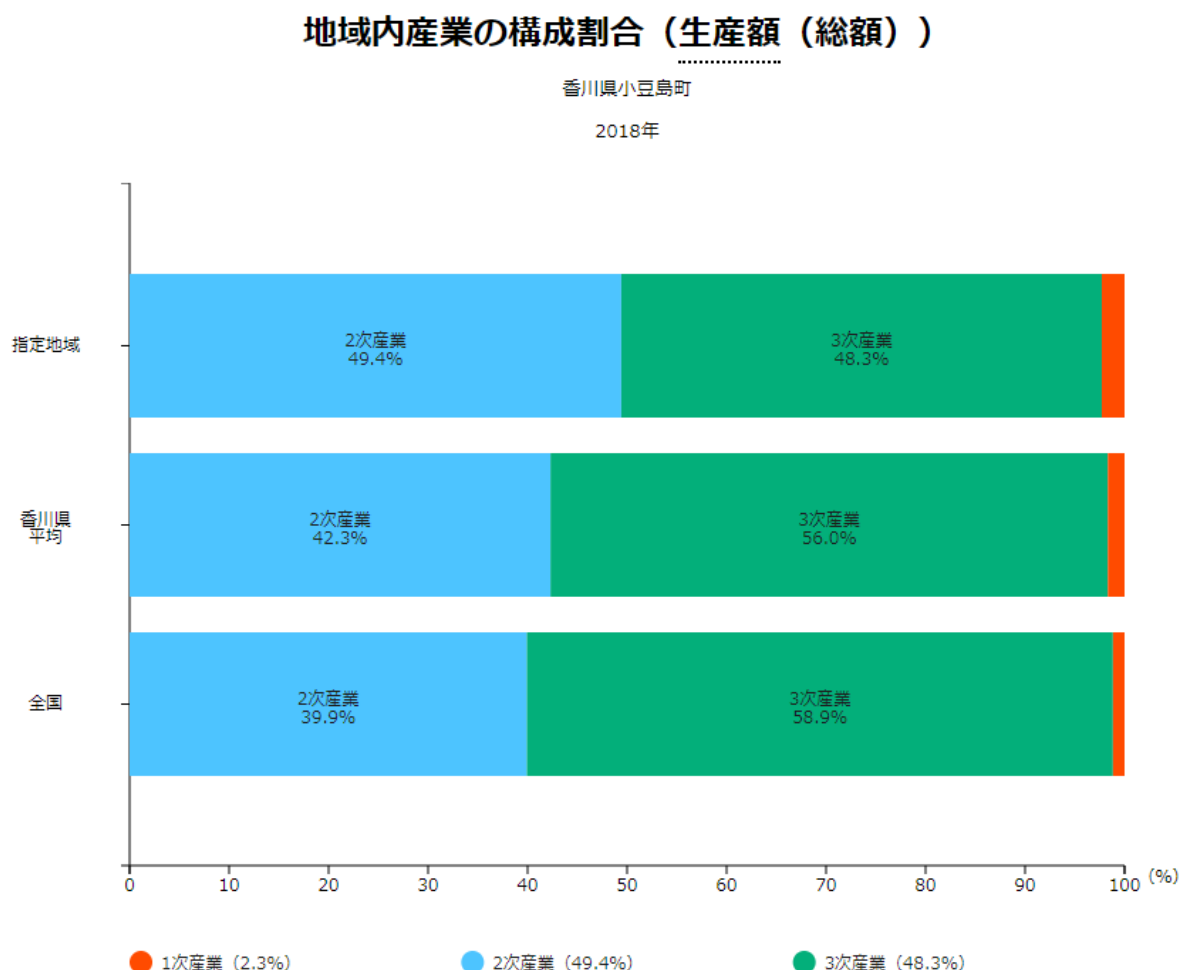
出典：小豆島町勢要覧 2021 資料編

2) 主要産業

小豆島の主な主要産業は醤油、そうめん、佃煮、特産物（オリーブ、みかん、すもも、いちごや生食用・ワイン用のぶどう等）など。その他漁業・農業もみられる。

① 地域内産業の構成割合

第二次産業が最も多い。全国、香川県と比較して第一次及び第二次産業の割合が高い。

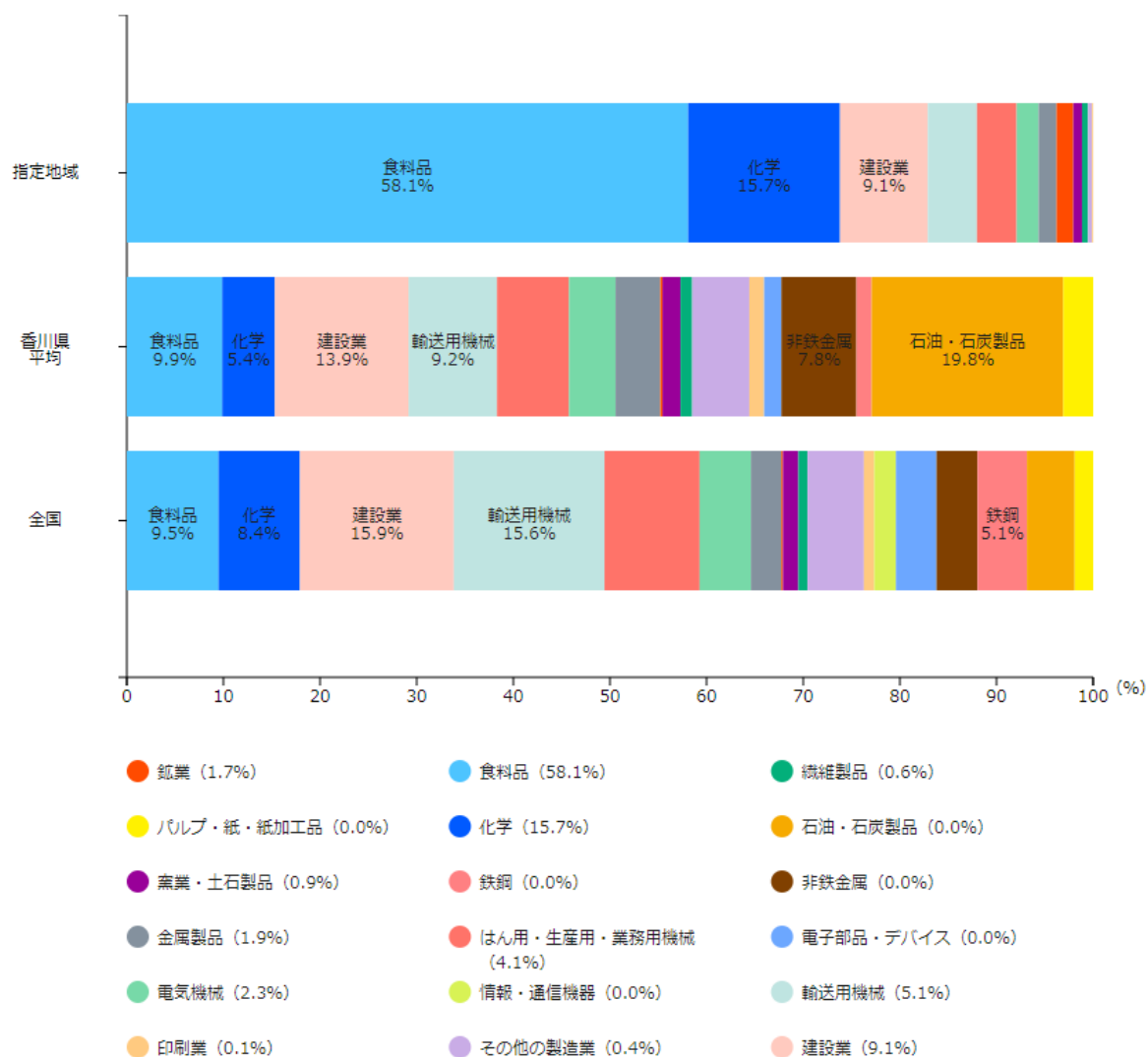


出典：「RESAS（地域経済分析システム）」（R6年2月29日に利用）

図 2.1-6 地域内産業の構成割合（生産額、2018年）

② 二次産業の構成割合

食料品が最も多く、約 6 割を占める。これは全国、香川県と比較しても割合が非常に高く、特徴的である。



出典：「RESAS（地域経済分析システム）」（R6 年 2 月 29 日に利用）

図 2.1-7 二次産業の構成割合（2018 年）

(5) 観光

1) 香川県への県外観光入込客数

令和4年の香川県への県外観光入込客数は777万人、前年比33.6%の増加となっている。増加の要因は、新型コロナウイルス感染症に係る行動制限のない状況が4月以降継続していたこと、瀬戸内国際芸術祭2022が開催されたこと等が考えられる。

表 2.1-6 県外観光入込客数の推移

(単位:千人)

交通機関		令和4年	令和3年	令和3年比(%)	令和元年	令和元年比(%)
JR	瀬戸大橋線	714	535	133.5%	1,064	67.1%
	四国内より	195	143	136.3%	296	65.8%
	小計	909	678	134.1%	1,360	66.8%
船舶	香川本土(直島を含む)へ	71	57	124.5%	92	76.8%
	小豆島へ	332	274	120.9%	465	71.5%
	小計	403	331	121.6%	557	72.3%
航空機		172	80	216.8%	403	42.8%
自動車	瀬戸中央自動車道	3,024	2,280	132.6%	3,466	87.2%
	神戸淡路鳴門自動車道	1,725	1,281	134.7%	2,067	83.4%
	西瀬戸自動車道	98	72	135.3%	115	85.3%
	四国3県より	1,439	1,096	131.3%	1,719	83.7%
	小計	6,286	4,729	132.9%	7,367	85.3%
合計		7,770	5,818	133.6%	9,687	80.2%

※令和3年比・令和元年比は千人単位ではなく、人単位で計算した数値

出典：令和4年香川県観光客動態調査報告／香川県

2) 小豆島町への観光客数の推移

2011～2020 年までの観光客数の推移は以下のとおり。新型コロナウイルス感染症流行前後（令和元/令和 2 年）を比較すると、約 4 割程度まで入込客数が減少している。

表 2.1-7 観光客数推移

■観光客数の推移(令和3年4月現在)

(単位:人)

年		観光客総数	宿泊客数
2011	平成23年	1,043,979	410,775
2012	平成24年	1,058,956	441,329
2013	平成25年	1,125,424	447,219
2014	平成26年	1,052,624	408,581
2015	平成27年	1,092,984	437,418
2016	平成28年	1,139,538	459,728
2017	平成29年	1,094,165	450,648
2018	平成30年	1,066,371	423,671
2019	令和元年	1,153,524	458,713
2020	令和2年	687,520	199,100

【小豆島観光協会】

出典：小豆島町勢要覧 2021 資料編

小豆島及び周辺観光地域の月別の入込客数は以下のとおり。香川県の主要観光地である琴平に次いで多く、栗林公園、屋島より多い。

表 2.1-8 月別入込客数

(人)

区分	栗林公園			屋島			琴平			小豆島			合計		
	令和4年	令和3年 令和3年比	令和元年 令和元年比	令和4年	令和3年 令和3年比	令和元年 令和元年比	令和4年	令和3年 令和3年比	令和元年 令和元年比	令和4年	令和3年 令和3年比	令和元年 令和元年比	令和4年	令和3年 令和3年比	令和元年 令和元年比
1月	27,268	17,928 152.1%	46,429 58.7%	42,718	29,576 144.4%	48,721 87.7%	287,000	142,000 202.1%	583,000 49.2%	49,871	40,291 123.8%	73,637 67.7%	406,857	229,795 177.1%	751,787 54.1%
2月	24,128	29,441 82.0%	56,754 42.5%	23,498	23,558 99.7%	30,255 77.7%	17,000	18,000 94.4%	46,000 37.0%	39,348	42,854 91.8%	68,849 57.2%	103,974	113,853 91.3%	201,858 51.5%
3月	35,300	58,109 60.7%	80,243 44.0%	35,767	28,034 127.6%	43,119 82.9%	90,000	56,000 160.7%	143,000 62.9%	65,814	64,803 101.6%	93,544 70.4%	226,881	206,946 109.6%	359,906 63.0%
4月	71,795	32,581 220.4%	113,514 63.2%	31,028	23,142 134.1%	43,896 70.7%	132,000	59,000 223.7%	327,000 40.4%	62,762	49,234 127.5%	91,896 68.3%	297,585	163,957 181.5%	576,306 51.6%
5月	47,874	3,525 1358.1%	76,223 62.8%	58,504	24,054 243.2%	56,135 104.2%	269,000	60,000 448.3%	396,000 67.9%	84,706	47,666 177.7%	120,608 70.2%	460,084	135,245 340.2%	648,966 70.9%
6月	28,003	13,376 209.4%	50,836 55.1%	39,893	16,092 247.9%	33,643 118.6%	162,000	96,000 168.8%	256,000 63.3%	59,669	42,248 141.2%	83,030 71.9%	289,565	167,716 172.7%	423,509 68.4%
7月	28,256	19,554 144.5%	43,403 65.1%	37,907	31,209 121.5%	35,628 106.4%	110,000	55,000 200.0%	88,000 125.0%	68,341	62,146 110.0%	96,861 70.6%	244,504	167,909 145.6%	263,892 92.7%
8月	36,833	3,113 1183.2%	50,020 73.6%	71,799	30,514 235.3%	54,651 131.4%	69,000	19,000 363.2%	98,000 70.4%	96,635	60,018 161.0%	128,634 75.1%	274,267	112,645 243.5%	331,305 82.8%
9月	27,541	213 12930.0%	52,710 52.3%	51,271	26,676 192.2%	41,833 122.6%	84,000	44,000 190.9%	121,000 69.4%	64,146	48,473 132.3%	93,892 68.3%	226,958	119,362 190.1%	309,435 73.3%
10月	44,649	27,443 162.7%	59,775 74.7%	81,569	41,127 198.3%	46,791 174.3%	249,000	156,000 159.6%	256,000 97.3%	83,419	64,705 128.9%	105,913 78.8%	458,637	289,275 158.5%	468,479 97.9%
11月	99,610	91,866 108.4%	103,154 96.6%	67,105	48,414 138.6%	51,377 130.6%	128,000	134,000 95.5%	161,000 79.5%	88,082	81,635 107.9%	120,480 73.1%	382,797	355,915 107.6%	436,011 87.8%
12月	32,870	28,032 117.3%	49,698 66.1%	40,123	32,021 125.3%	38,540 104.1%	168,000	138,000 121.7%	155,000 108.4%	64,976	64,744 100.4%	76,180 85.3%	305,969	262,797 116.4%	319,418 95.8%
累計	504,127	325,181 155.0%	782,759 64.4%	581,182	354,417 164.0%	524,589 110.8%	1,765,000	977,000 180.7%	2,630,000 67.1%	827,769	668,817 123.8%	1,153,524 71.8%	3,678,078	2,325,415 158.2%	5,090,872 72.2%

出典：令和 4 年香川県観光動態調査報告（確定版）

3) 主要観光施設の入込客数

主要観光施設の入込客数は以下のとおり。オリーブ公園や寒霞溪の入込客数が多い傾向である。

表 2.1-9 主要観光施設の入込客数

■主要観光施設の入込客数(令和3年4月現在) (単位:人)

年	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
観光地名	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年
寒 霞 溪	311,184	309,669	285,594	280,471	311,018	316,193	349,661	320,956	318,948	142,060
岬の分教場	72,604	70,315	59,577	56,956	54,433	49,946	47,623	60,219	68,134	26,947
二十四の瞳映画村	193,697	209,304	214,316	186,884	198,609	183,734	199,419	195,096	205,656	90,635
オリーブ公園	279,411	311,162	352,795	327,635	336,872	345,651	371,189	349,258	388,565	151,912
オートビレッジYOSHIDA	16,594	17,240	18,543	17,752	14,009	16,433	17,222	17,016	19,406	12,961
オ リ ー ブ 園	160,600	158,500	161,300	146,100	151,100	144,500	148,500	133,800	133,700	69,100
マルキン醤油記念館※	76,888	77,697	83,065	75,427	75,841	-	-	-	-	-
ふるさと村	201,952	199,623	169,026	165,211	176,435	193,208	166,941	151,712	194,886	55,181
計	1,312,930	1,353,510	1,344,216	1,256,436	1,318,317	1,249,665	1,300,555	1,228,057	1,329,295	548,796

※マルキン醤油記念館:H28.1～無料開館としているため人数把握不可

【商工観光課】

出典：小豆島町勢要覧 2021 資料編

令和 5 年度におけるゴールデンウィーク期間中の香川県主要観光地の状況は以下のとおり。小豆島の観光地である寒霞溪、二十四の瞳映画村、オリーブ公園の観光客数は2022 年、2019 年と比較しても減少傾向にある。

表 2.1-10 R5 年ゴールデンウィーク期間中の主要観光地の状況

2 県内主要観光地の観光客数の状況 (人)

	2023(R5)年 4/29～5/7 (9日間)	2022(R4)年 4/29～5/8 (10日間)	増加 人数	対R4 年比	2019(R元)年 4/27～5/6 (10日間)	増加 人数	対R元 年比
栗 林 公 園	27,612	27,304	308	101.1%	45,868	-18,256	60.2%
屋 島	30,121	26,514	3,607	113.6%	37,215	-7,094	80.9%
金 刀 比 羅 宮 参 道 口	83,017	98,435	-15,418	84.3%	160,935	-77,918	51.6%
寒霞溪(ロープウェイ) ※1	12,720	12,744	-24	99.8%	22,855	-10,135	55.7%
二 十 四 の 瞳 映 画 村	8,484	9,953	-1,469	85.2%	23,613	-15,129	35.9%
オ リ ー ブ 公 園	17,855	20,102	-2,247	88.8%	41,175	-23,320	43.4%
小計(4大観光地施設) ①	179,809	195,052	-15,243	92.2%	331,661	-151,852	54.2%
県立東山魁夷せとうち美術館	2,122	3,533	-1,411	60.1%	6,762	-4,640	31.4%
ニューレオマワールド	50,527	53,564	-3,037	94.3%	82,862	-32,335	61.0%
国営讃岐まんのう公園	31,950	39,096	-7,146	81.7%	54,352	-22,402	58.8%
直島地中美術館 ※2	6,498	6,811	-313	95.4%	10,124	-3,626	64.2%
玉 藻 公 園	23,176	24,184	-1,008	95.8%	24,715	-1,539	93.8%
瀬 戸 大 橋 記 念 館	9,088	11,608	-2,520	78.3%	20,073	-10,985	45.3%
県立ミュージアム	9,467	3,775	5,692	250.8%	13,173	-3,706	71.9%
さぬきこどもの国	37,800	31,900	5,900	118.5%	74,800	-37,000	50.5%
小 計 ②	170,628	174,471	-3,843	97.8%	286,861	-116,233	59.5%
計 ① + ②	350,437	369,523	-19,086	94.8%	618,522	-268,085	56.7%
【参考】土日祝日1日あたり平均観光客数	42,122	39,874	2,248	105.6%	61,852	-19,730	68.1%
父 母 ケ 浜 ※3	42,700	51,450	-8,750	83.0%			
四 国 水 族 館 ※3	57,000	63,000	-6,000	90.5%			
小 計 ③	99,700	114,450	-14,750	87.1%			
合 計 ① + ② + ③	450,137	483,973	-33,836	93.0%			

※1 2019年の寒霞溪(ロープウェイ)は、休業日を除く9日間における観光客数

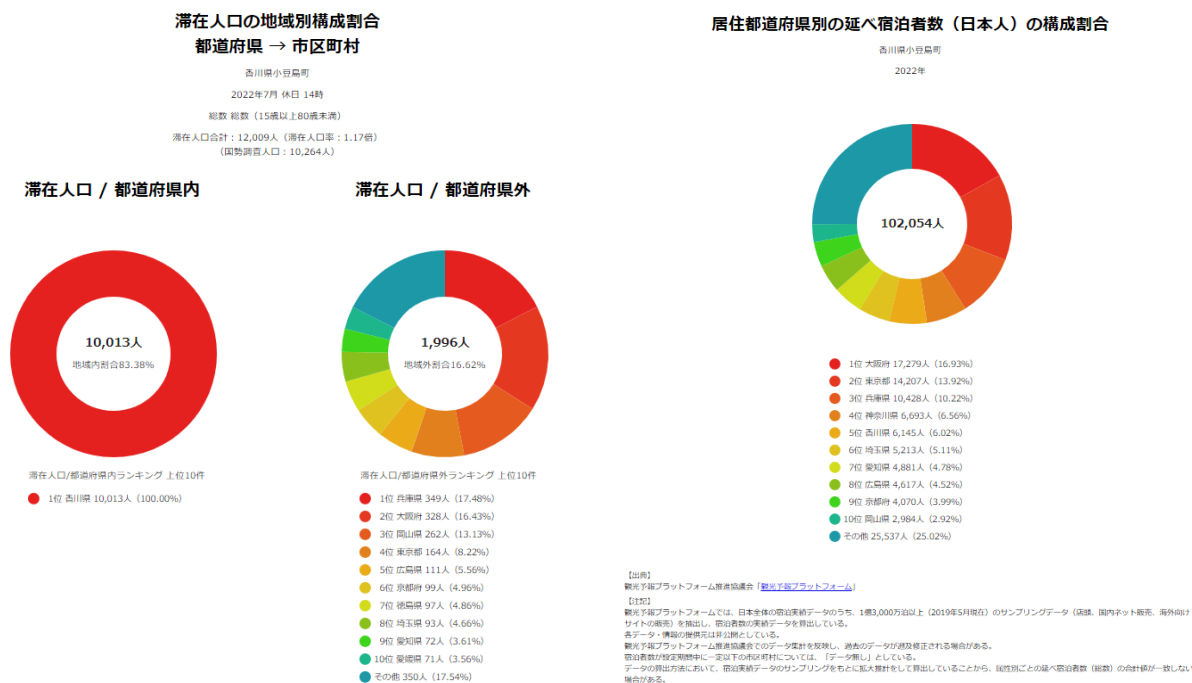
※2 直島地中美術館については、休館日を除く期間(2023年は8日間、2022年は9日間、2019年は9日間)の観光客数。

※3 父母ヶ浜、四国水族館については、2021年から調査を開始。

出典：香川県 HP

4) 観光客の地域別構成

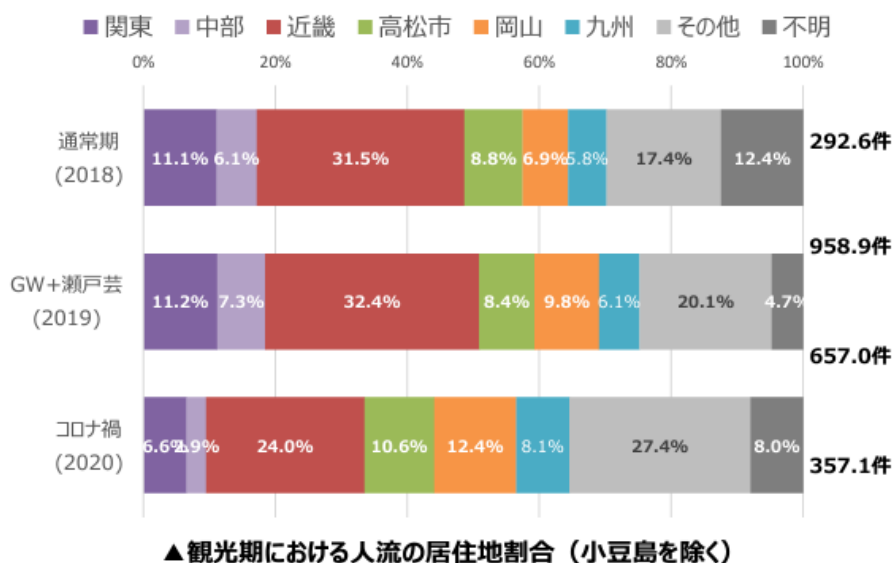
小豆島への観光客の地域別構成は以下のとおり。都道府県外の滞在人口は兵庫県、大阪府、岡山県が多い。延べ宿泊者数の構成としては大阪府、東京都、兵庫県が多いことから、宿泊客の対象圏は広くなることがわかる。



出典:「RESAS(地域経済分析システム)」(R5年6月28日利用)

図 2.1-8 滞在人口の地域別構成割合

また、人流の居住地割合は以下のとおり。通常期、GW+瀬戸芸時期どちらも近畿圏が最も多い。コロナ禍では関東圏、中部など比較的遠方からの人流が減っている。



出典: 小豆島地域公共交通計画参考資料

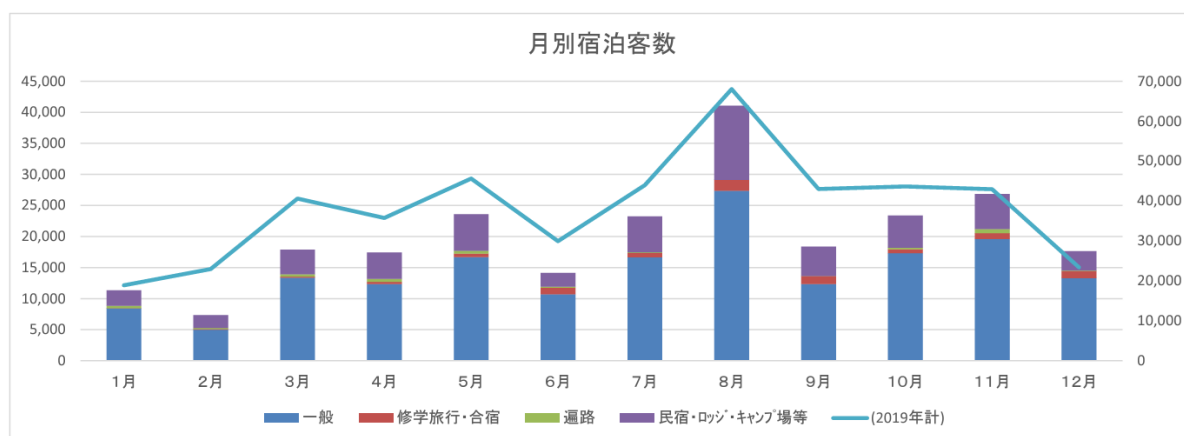
図 2.1-9 人流の居住地割合

5) 観光客の動向

① 宿泊客の動向

宿泊客の動向は以下のとおり。宿泊客数は2021年度比で46%の大幅増となったが、コロナ前の2019年と比較するといまだ47%減である。民宿、ロッジ、キャンプ場等は2019年からの回復率が高く、コロナ禍の中で密を避ける傾向があったことがわかる。2022年は8月の宿泊が大きく回復し、8月、次いで11月が最多というコロナ前と同様の傾向になった。しかし、1,2月の閑散期は少なく、2月は8月の1/5の宿泊しかない状況となっている。

	2000	2005	2010	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
一般	284,722	320,338	307,892	319,084	346,690	345,121	320,964	353,413	155,234	120,582	173,090
修学旅行・合宿	5,912	12,256	21,226	24,245	28,379	23,239	25,094	21,797	5,217	5,887	8,662
遍路	47,899	29,973	20,191	14,490	8,037	9,906	8,176	6,740	1,403	1,064	3,242
民宿・ロッジ・キャンプ場等	69,647	63,344	78,875	79,599	76,622	72,382	69,437	76,763	37,246	38,305	57,176
計	408,180	425,911	428,184	437,418	459,728	450,648	423,671	458,713	199,100	165,838	242,170



2022年月別宿泊者数	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
一般	8,429	4,974	13,352	12,364	16,687	10,708	16,655	27,372	12,340	17,334	19,590	13,285	173,090
修学旅行・合宿	26	120	150	322	566	1,021	712	1,742	1,274	603	974	1,152	8,662
遍路	413	151	435	486	451	168	107	20	56	259	633	63	3,242
民宿・ロッジ・キャンプ場等	2,451	2,112	3,920	4,264	5,888	2,242	5,753	11,910	4,669	5,176	5,669	3,122	57,176
2022年計	11,319	7,357	17,857	17,436	23,592	14,139	23,227	41,044	18,339	23,372	26,866	17,622	242,170
(2019年計)	18,885	22,957	40,627	35,732	45,634	29,944	43,984	68,019	43,016	43,622	42,934	23,359	458,713

うち外国人宿泊者数1845人

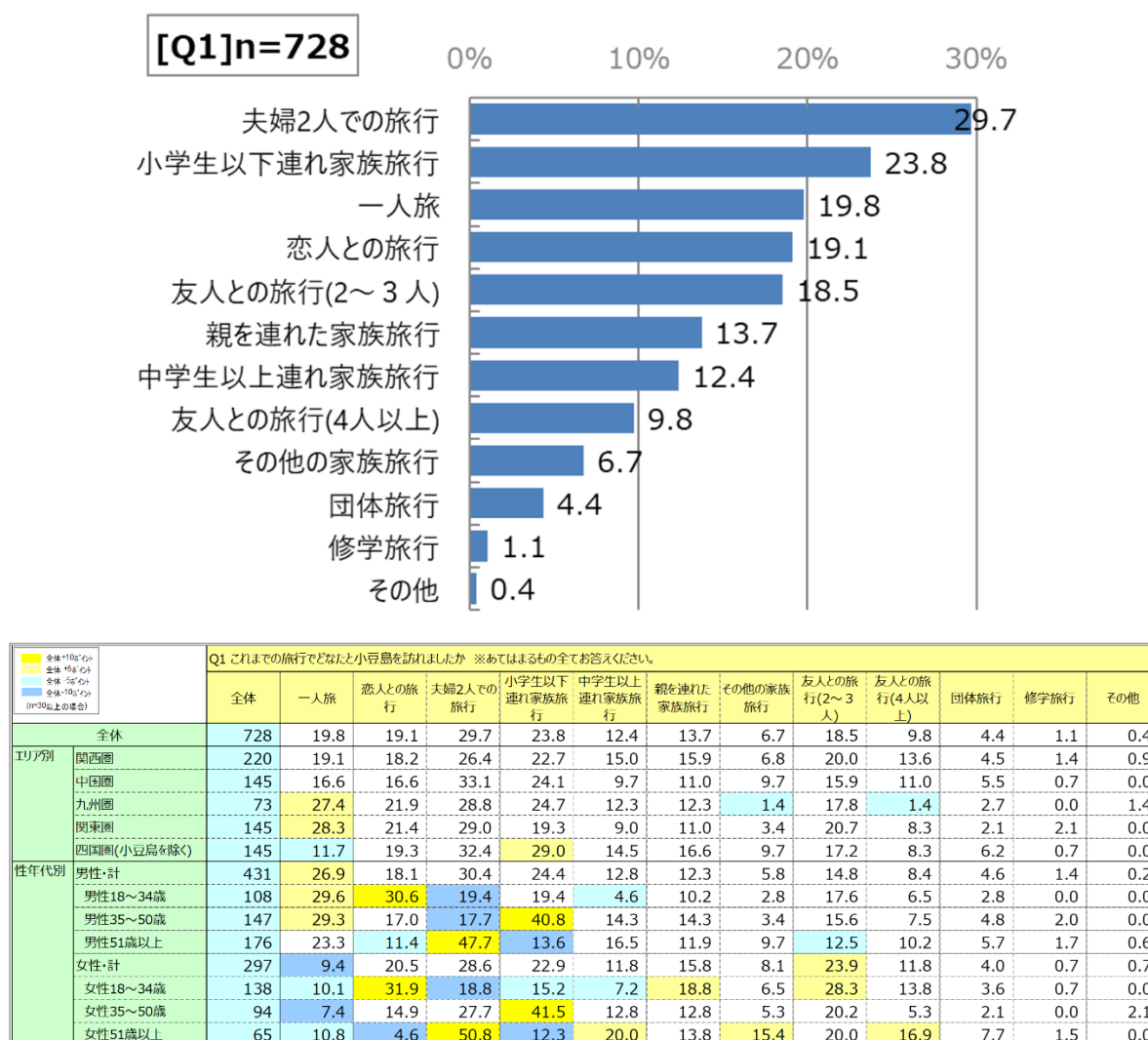
©小豆島観光協会 2023

出典：小豆島各港別乗降客等調査表

図 2.1-10 宿泊客数の動向

② 同行者の動向

小豆島来訪時の同行者については「夫婦 2 人での旅行」が最も多く、次いで「小学生以下連れ家族旅行」、「一人旅」となっている。

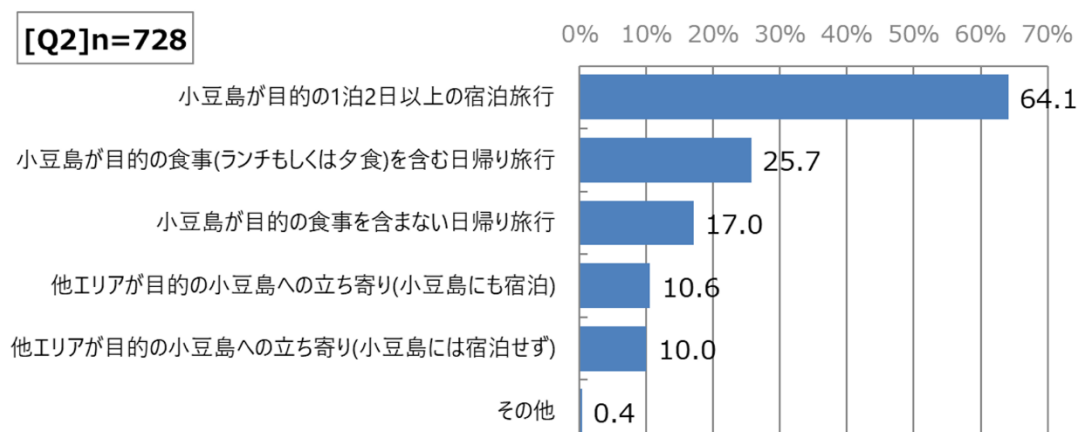


出典：小豆島観光協会 GAP 調査

図 2.1-11 同行者の動向

③ 来訪時の旅行形態

小豆島来訪時の旅行形態については、「小豆島が目的の1泊2日以上宿泊旅行」が最も多く、次いで「小豆島が目的の食事（ランチもしくは夕食）を含む日帰り旅行」となっている。

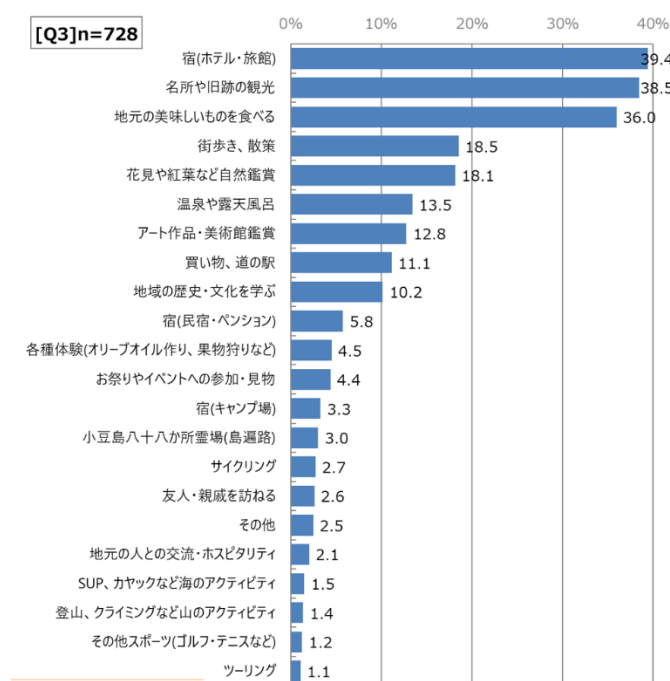


出典：小豆島観光協会 GAP 調査

図 2.1-12 旅行形態

④ 来訪目的

小豆島への来訪目的については「宿（ホテル・旅館）」ならびに「名所や旧跡の観光」がともに多く、次いで「地元の美味しいものを食べる」、「街歩き、散策」となっている。



		Q3 小豆島を訪れた目的は何ですか？3つまでお答えください。 ※あてはまるものがない方も、選択肢の中から近いものをお答えください。 ※数回小豆島を訪れている方は、直近の旅行での目的をお答えください。											
		全体	宿(ホテル・旅館)	宿(民宿・ペンション)	宿(キャンプ場)	温泉や露天風呂	地元の美味しいものを食べる	地元の人との交流・ホスピタリティ	花見や紅葉など自然鑑賞	名所や旧跡の観光	地域の歴史・文化を学ぶ	アート作品・美術館鑑賞	買い物、道の駅
エリア別	全体	728	39.4	5.8	3.3	13.5	36.0	2.1	18.1	38.5	10.2	12.8	11.1
	関西圏	220	45.0	6.4	2.3	15.0	40.5	1.8	14.5	36.8	10.9	9.1	11.4
	中国圏	145	30.3	3.4	2.8	11.7	31.7	2.1	18.6	43.4	9.0	13.8	13.1
	九州圏	73	45.2	6.8	4.1	17.8	28.8	4.1	11.0	27.4	12.3	6.8	11.0
	関東圏	145	46.2	9.7	4.8	16.6	38.6	2.1	10.3	37.2	10.3	15.2	9.7
性年代別	四国圏(小豆島を除く)	145	30.3	2.8	3.4	7.6	34.5	1.4	34.5	42.8	9.0	17.9	10.3
	男性・計	431	42.5	7.7	3.7	14.4	34.8	1.6	16.7	38.5	11.1	9.5	10.7
	男性18～34歳	108	54.6	8.3	8.3	15.7	34.3	1.9	8.3	24.1	8.3	8.3	10.2
	男性35～50歳	147	39.5	10.9	4.1	12.9	34.7	2.0	15.6	33.3	10.2	10.9	12.9
	男性51歳以上	176	37.5	4.5	0.6	14.8	35.2	1.1	22.7	51.7	13.6	9.1	9.1
	女性・計	297	35.0	3.0	2.7	12.1	37.7	2.7	20.2	38.4	8.8	17.5	11.8
	女性18～34歳	138	34.8	3.6	4.3	9.4	39.1	3.6	18.1	31.2	5.8	17.4	10.9
	女性35～50歳	94	37.2	3.2	2.1	17.0	39.4	1.1	16.0	44.7	9.6	18.1	12.8
	女性51歳以上	65	32.3	1.5	0.0	10.8	32.3	3.1	30.8	44.6	13.8	16.9	12.3
		全体	お祭りやイベントへの参加・見物	街歩き、散策	各種体験(オリブオイル作り、果物狩りなど)	SUP、カヤックなど海のアクティビティ	登山、クライミングなど山のアクティビティ	その他スポーツ(ゴルフ・テニスなど)	サイクリング	ツーリング	小豆島八十八か所霊場(島巡路)	友人・親戚を訪ねる	その他
エリア別	全体	728	4.4	18.5	4.5	1.5	1.4	1.2	2.7	1.1	3.0	2.6	2.5
	関西圏	220	2.3	20.5	4.5	1.8	0.9	0.5	3.2	1.4	3.2	3.2	3.6
	中国圏	145	4.1	17.2	5.5	0.0	0.7	2.1	2.8	1.4	2.1	1.4	2.1
	九州圏	73	8.2	11.0	6.8	4.1	1.4	0.0	1.4	1.4	2.7	2.7	1.4
	関東圏	145	5.5	17.2	3.4	2.1	2.8	2.1	2.1	0.7	5.5	2.8	0.7
性年代別	四国圏(小豆島を除く)	145	4.8	22.1	3.4	0.7	1.4	1.4	3.4	0.7	1.4	2.8	3.4
	男性・計	431	4.9	15.1	3.2	1.9	2.1	1.4	3.9	1.6	3.9	2.6	1.9
	男性18～34歳	108	7.4	19.4	0.9	0.9	1.9	0.0	2.8	0.0	0.9	1.9	2.8
	男性35～50歳	147	6.8	14.3	4.1	3.4	2.7	2.7	4.1	1.4	5.4	2.0	2.7
	男性51歳以上	176	1.7	13.1	4.0	1.1	1.7	1.1	4.5	2.8	4.5	3.4	0.6
	女性・計	297	3.7	23.6	6.4	1.0	0.3	1.0	1.0	0.3	1.7	2.7	3.4
	女性18～34歳	138	3.6	29.7	6.5	0.0	0.0	0.0	1.4	0.0	0.7	2.9	2.9
	女性35～50歳	94	3.2	14.9	5.3	1.1	0.0	2.1	1.1	1.1	2.1	1.1	4.3
	女性51歳以上	65	4.6	23.1	7.7	3.1	1.5	1.5	0.0	0.0	3.1	4.6	3.1

出典：小豆島観光協会 GAP 調査

図 2.1-13 来訪目的

⑤ 島外居住者の休日滞在地

滞在の多い箇所は例年の休日、2019年の瀬戸芸時期同様土庄港～土庄町役場周辺、マルナカ周辺や池田港・小豆島中央病院、小豆島町役場～苗羽周辺のほか、オリーブ公園周辺や小豆島北側の福田・大部などである。瀬戸芸時期には滞在箇所が広範囲に分布しており、特に豊島や中山地区等にも滞在がみられる。

〔2018 休日〕

- ・平均サンプル数は 292.6 であり、近畿が 31.5%、関東 11.1%、高松市 8.8%、岡山 6.9%である。
- ・滞在の多い箇所としては、土庄港～土庄町役場周辺・マルナカ周辺や、池田港・小豆島中央病院、小豆島町役場～苗羽周辺のほか、オリーブ公園周辺や福田や大部など北側にも滞在がみられる。



〔2019 休日 (GW+瀬戸芸)〕

- ・平均サンプル数は 958.9 であり、近畿が 32.4%、関東 11.2%、高松市 8.4%、岡山 9.8%である。
- ・滞在の多い箇所としては 2018 休日と同様であるが、滞在箇所が広範囲に分布しており、特に豊島や中山地区等にも滞在が多くみられる。



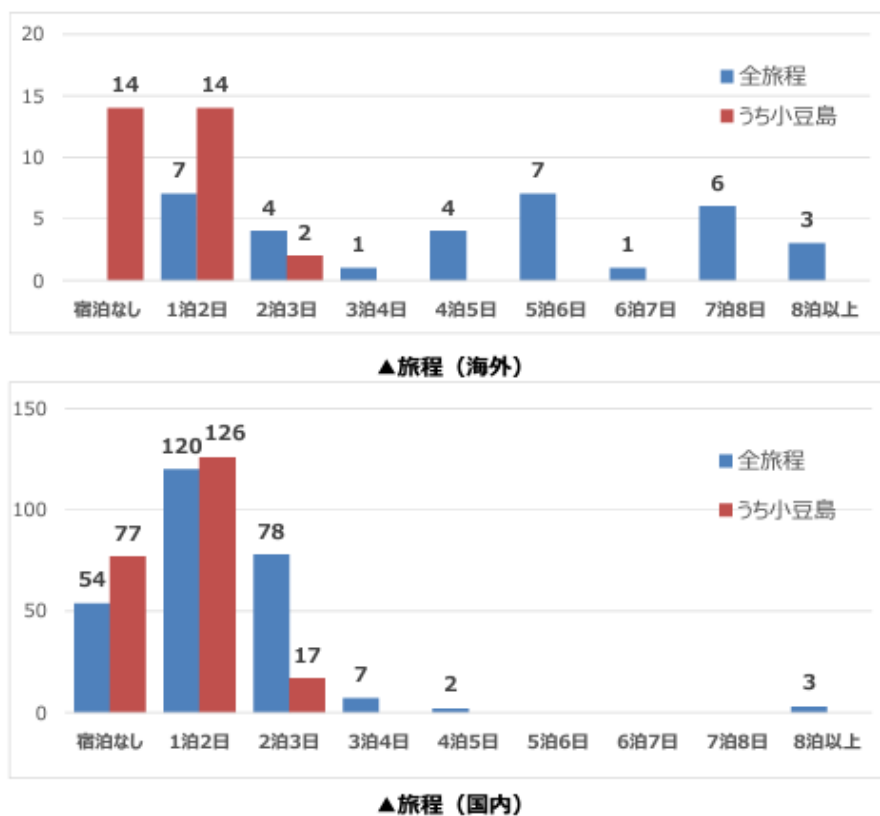
※「滞在」対象者が 10 分以上滞在したメッシュ。

出典：小豆島地域公共交通計画

図 2.1-14 休日滞在地

⑥ 外国人観光客の動向

外国人観光客の旅程は「1泊2日」もみられるものの、国内旅行者に比べて全旅程のうち4泊以上の長期滞在が多い傾向にある。一方で小豆島に滞在する日数は、「宿泊なし」が半数程度あるものの、「1泊2日」以上も半数程度みられる。



出典）H30 観光客アンケート調査（小豆島地域公共交通協議会調べ）

出典：小豆島地域公共交通計画参考資料

図 2.1-15 旅程

また、高松港周辺から栗林公園や屋嶋城跡展望台への周遊に比較して小豆島へ周遊する割合は少ない。



出典：平成 29 年度広域観光周遊ルート形成促進事業外国人観光客の動態調査（せとうち・海の道）調査結果報告書／せとうち DM0

図 2.1-16 香川県内の外国人観光客の動向

小豆島地区を訪れた外国人観光客が訪問した地域としては岡山駅が最も多く、次いで道後温泉本館、倉敷美観地区の順となっている。



6) 施設立地

① 宿泊施設

小豆島の宿泊施設は令和 5 年 10 月時点で約 50 件ある。

② 飲食施設

小豆島観光協会 HP にて紹介されている飲食施設は計 131 件ある。

③ 観光施設

小豆島の観光施設は以下のとおり。小豆島の主要観光地に加え、キャンプ場や道の駅、石の名所、海水浴場も示されている。



出典：小豆島観光協会 HP

図 2.1-18 観光施設一覧

7)小豆島のイベント状況

小豆島のイベントは以下のとおりであり、年間を通じてイベントが開催されている。

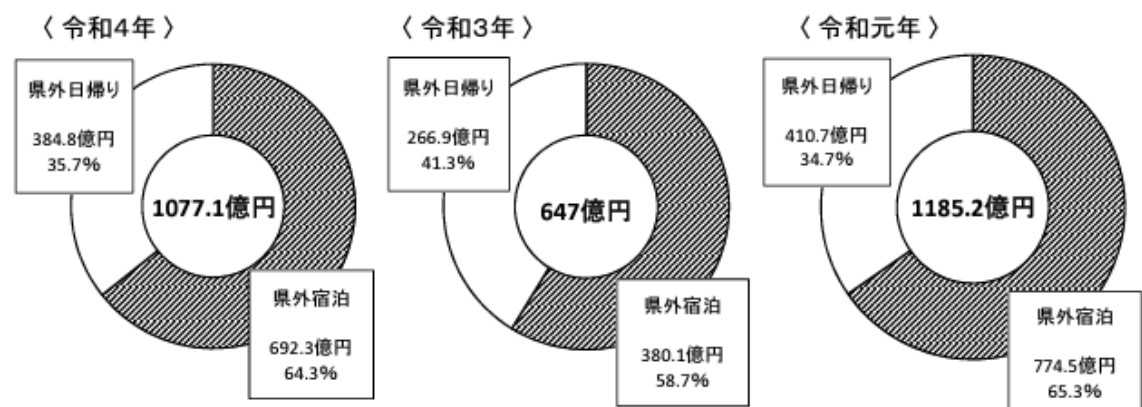
表 2.1-11 イベント情報

開催日(2023 年)	イベント	開催地
1 月 1 日(日)～ 1 月 3 日(火)	ふるさとのお正月	二十四の瞳映画村
1 月 15 日(日)	とんど	二十四の瞳映画村
4 月 8 日(土)～ 5 月 14 日(日)	二十四の瞳の鯉のぼり	二十四の瞳映画村
5 月下旬～ 6 月中旬	中山のほたる	小豆島町 中山殿川
5 月 21 日(日)	第 45 回小豆島オリーブマラソン全国大会 ※参加ランナー数：3,017 人	小豆島町 坂手港町営広場
8 月 5 日(土)～ 8 月 7 日(月)	二十四の瞳映画村 セタ祭り	二十四の瞳映画村
8 月 14 日(月)	川めし、安田おどり [町指定無形民俗文化財]	小豆島町 草壁別当川 小豆島町安田 安田小学校
8 月 15 日(火)	第 41 回小豆島まつり(小豆島町) ※参加人数：約 2,000 人	小豆島町 内海総合運動公園周辺
8 月上旬～中旬 11 月中旬～下旬	映画村季節の花畑(向日葵、秋桜)	二十四の瞳映画村
10 月下旬	小豆島町ふるさと商工まつり ※参加人数：約 1,500 人	-
10 月 11 日(水)～ 10 月 21 日(土)	秋祭り太鼓台奉納	各地区神社
10 月下旬～11 月	オリーブ収穫祭 ※参加人数(大収穫祭)：約 1,500 人	道の駅小豆島オリーブ公園
11 月上旬	寒霞溪もみじ茶会	寒霞溪山頂駅展望デッキ
11 月 25 日(土)	二十四の瞳・岬の分教場絵画展授賞式	岬の分教場

出典：小豆島観光協会 HP／小豆島観光協会

8) 観光消費額

香川県内での観光消費金額は以下のとおり。平均して県外からの宿泊観光客の方が消費金額は多い。



(単位: 千円)

	県外宿泊観光客	県外日帰り観光客	計
令和4年	69,230,352	38,480,222	107,710,574
令和3年	38,013,199	26,691,269	64,704,468
令和3年比	182.1%	144.2%	166.5%
令和元年	77,447,066	41,068,998	118,516,064
令和元年比	89.4%	93.7%	90.9%

出典：令和4年香川県観光客動態調査報告

図 2.1-19 観光消費金額（宿泊客、日帰り客別）

費目別に確認すると、宿泊費、交通費、飲食費の順に金額が大きい。

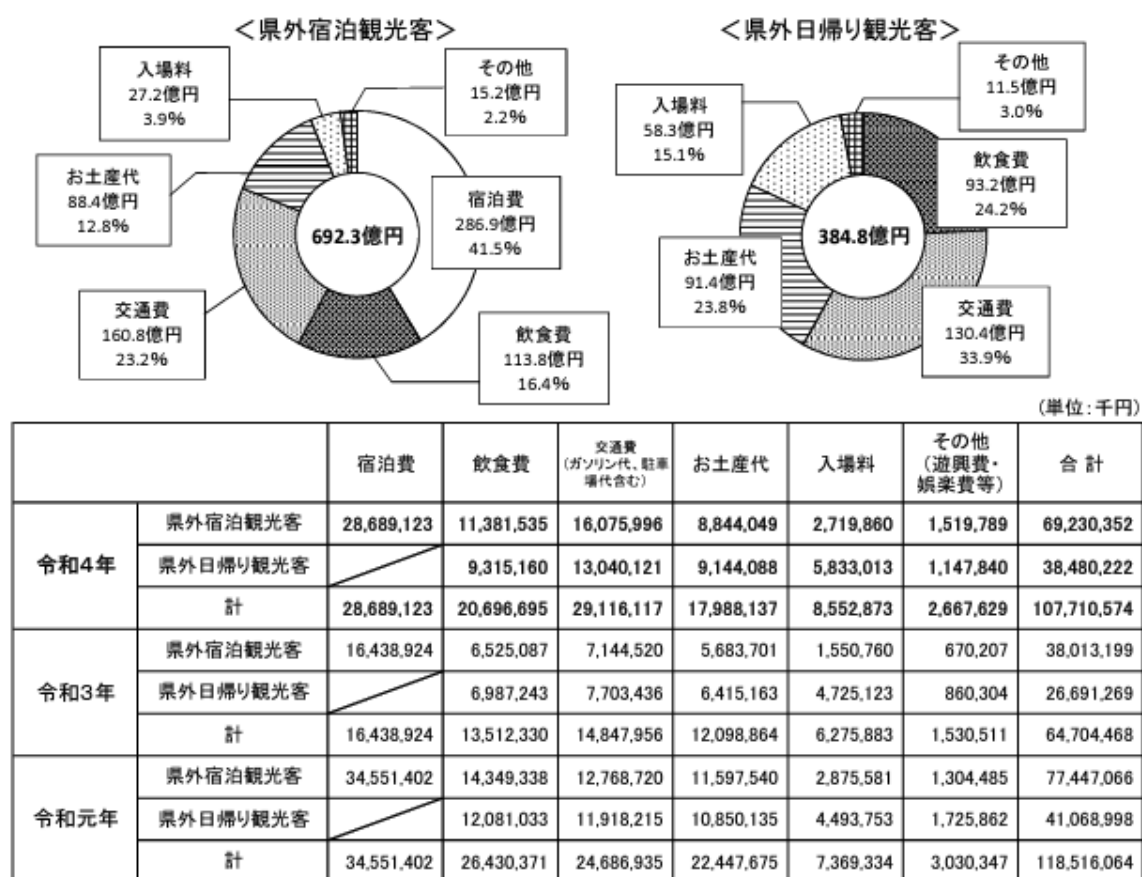
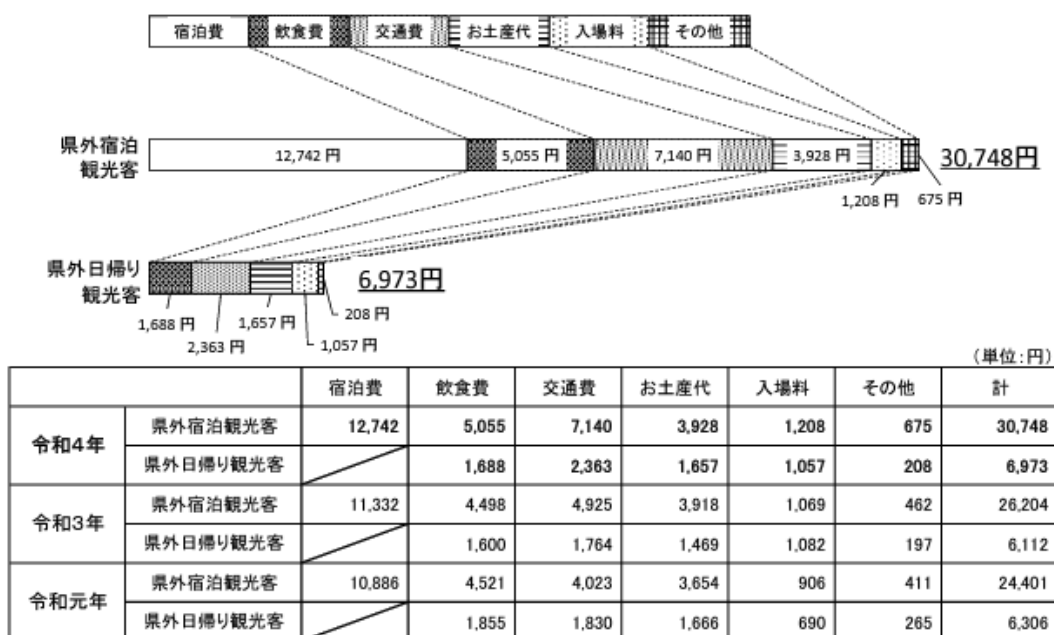


図 2.1-20 費目別観光消費金額

令和4年度の一人当たりの消費額は宿泊観光客が約3万円、日帰り観光客が約7千円である。



出典：令和4年香川県観光客動態調査報告

図 2.1-21 一人当たりの観光消費金額

(6) 文化財

1) 国・県指定文化財

国及び県指定文化財は以下のとおり。重要文化財、重要有形民俗文化財、天然記念物、県指定有形文化財、県指定無形民俗文化財、県指定史跡、県指定天然記念物、国登録文化財などがある。

表 2.1-12 国・県指定文化財

■国・県指定文化財一覧

令和3年10月1日

種 別	区 分	名 称	所在地	指定年月日	種 別	区 分	名 称	所在地	指定年月日
重要文化財	建造物	明王寺釈迦堂	池田	明治40年5月27日	県指定有形文化財	彫 刻	木造大日如来坐像	吉野	昭和41年3月31日
	彫 刻	木造伝池田八幡本地仏坐像	池田	大正8年8月8日			木造二天立像	吉野	昭和41年3月31日
	工芸品	梵 鐘	池田	昭和41年6月11日		県指定無形民俗文化財	安田おどり	安田	昭和48年5月12日
重要有形民俗文化財	民 俗	池田の棧敷	池田	昭和51年8月23日	小豆島農村歌舞伎(中山農村歌舞伎)		中山	昭和50年7月31日	
		中山の舞台	中山	昭和62年3月3日		大坂城用残石及番屋七兵衛屋敷跡	岩谷	昭和45年4月28日	
天然記念物	記念物	誓願寺のソテツ	二面	大正13年12月9日	県指定史跡	星が城跡	安田・片城	昭和47年4月27日	
		皇子神社社叢	神浦	昭和3年1月31日		県指定天然記念物	動 物	老杉洞の日本サル群	神懸通
	史 跡	大坂城石垣石丁場跡 小豆島石丁場跡	岩谷	昭和47年3月16日	植 物			内海八幡神社社叢	馬木
	名 勝	神懸山(寒霞溪)	神懸通	大正12年3月7日			福田(葦田)八幡神社社叢	福田	昭和46年4月30日

国重要美術品	宝篋印塔	池田	昭和18年10月1日	国登録文化財	有形	登録有形文化財群 94件 町内醤油蔵及び関連施設、佃煮製造施設、 醤油醸造家邸宅、民家など	西村、草壁、 安田、馬木、 苗羽、坂手	平成8年以降
国記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財	小豆島農村歌舞伎(中山農村歌舞伎)	中山	平成27年3月2日		無形民俗	讃岐の醤油醸造技術	県内	令和3年9月30日

【生涯学習課】

出典：小豆島町勢要覧 2021 資料編

2) 町指定文化財

町指定の文化財は以下のとおり。

表 2.1-13 町指定文化財

■町指定文化財一覧

令和3年10月1日

種 別	区 分	名 称	所在地	指定年月日	種 別	区 分	名 称	所在地	指定年月日
有形文化財	建造物	苗羽小学校旧田浦分校校舎	田浦	昭和48年3月26日	有形民俗 文化財		しし垣(橋畔)	橋	昭和45年10月2日
		銅 楼	坂手	昭和55年3月26日			清見寺下り井	草壁本町	昭和47年4月21日
		内海八幡神社石鳥居	馬木	平成6年4月20日			お水大師供養碑	安田	昭和49年3月12日
	絵 画	紙本着色春日曼荼羅図	安田	昭和52年3月25日			長崎のしし垣	二面	昭和61年6月23日
		亀山八幡宮奉納絵額	池田	昭和58年4月27日			船図・船大工道具	片城	平成12年5月18日
		光明寺格天井「百花園」	池田	平成8年3月21日			中山農村歌舞伎根本類及び衣装、道具等	中山	平成13年2月6日
	彫 刻	木造狛犬	馬木	昭和49年3月12日	無形民俗 文化財		川めし	草壁別当川	昭和51年3月25日
		木造男神女神像	馬木	昭和49年3月12日			オシコミ	神浦	昭和62年12月15日
		地藏菩薩立像	中山	昭和60年2月5日			大練り(オオネリ)	池田	平成元年4月14日
		古江庵の木造阿弥陀如来像	古江	昭和60年3月25日			幟さし	馬木・橋	平成8年5月20日
		不動明王立像	苗羽	平成6年4月20日			観音堂石井	馬木	昭和47年4月21日
	美術 工芸品	五輪塔形供養碑	坂手	昭和45年10月2日	史 跡		大坂城築城用残石(福田)	福田	昭和48年3月26日
		石燈籠	馬木	昭和45年10月2日			ほら貝岩洞穴遺跡	神懸通	昭和48年3月26日
		球心宝篋印塔	片城	昭和47年4月21日			極ヶ谷牛飼場遺跡	安田	昭和48年3月26日
		宝篋印塔	安田	昭和49年3月12日			経 塚	坂手	昭和48年3月26日
		神獸鏡	苗羽	昭和53年3月25日			大坂城築城用残石(石場)	二面	昭和57年5月27日
		銅 鐘	坂手	昭和55年4月27日			弁天島古墳群附同古墳出土須恵器	苗羽	平成4年4月11日
		湯船山蓮華寺の梵鐘	中山	昭和58年4月27日			平井兵左衛門氏政終焉の地	池田	平成5年3月1日
		当世具足(御貸具足)	安田	平成5年5月20日	天然記念物	植 物	隼山のイノスキ	坂手	昭和47年4月21日
		白粉石の多重塔	蒲野	平成24年4月24日			大町家のナンテン	岩谷	昭和50年3月26日
	書 跡	観音寺聖教類	坂手	昭和45年10月2日			当浜のヤブツバキ群生林	当浜	昭和50年3月26日
		内海八幡神社棟札	馬木	昭和45年10月2日			福田診療所のアコウ	福田	昭和50年3月26日
		福田玉比売神社棟札	福田	昭和56年3月26日			福田のホルトの木(モガシ)	福田	昭和50年3月26日
		亀山八幡宮棟札	池田	平成24年4月24日			西村高木神社叢(鈴ヶ森)	西村	昭和50年3月26日
		壺井家文書	安田	昭和43年10月2日			天津神社社叢	神懸通	昭和50年3月26日
	古文書	菅家文書	片城	昭和45年10月2日			真光寺のシンパクとクスノキ	馬木	昭和50年3月26日
		赤松家文書	安田	昭和45年10月2日			坂手加茂明神社社叢	坂手	昭和50年3月26日
		小豆島九ヶ村高反別明細帳	福田	昭和52年3月25日			坂手荒神社社叢	坂手	昭和50年3月26日
		金地院崇伝書状(折紙)	安田	昭和54年3月26日			老杉洞のアカガシ	神懸通	昭和52年3月25日
		坂手村検地帳ほか	坂手	昭和56年3月26日			星が城のツルマサキ	安田	昭和52年3月25日
		橋本屋「萬覚」・「醤油帳」	安田	昭和56年3月26日			橋荒神社社叢	橋	昭和53年3月24日
		福田村検地帳ほか	福田	昭和58年3月31日			寒霞溪のショウドシマレンギョウ群落	神懸通	昭和54年3月26日
		旧平井家・岡田家文書	池田	昭和59年9月2日			湯船山の樹林	中山	昭和57年5月27日
		岡田家文書	安田	昭和62年3月25日			亀山八幡宮のシンパク	池田	昭和58年4月27日
		廣瀬家文書	安田	昭和62年3月25日			清見寺のイチョウ	草壁本町	昭和60年3月25日
	金石文	恩澤の碑	蒲生	平成3年4月1日			西山稲荷神社社叢	坂手	平成4年4月11日

出典：小豆島町勢要覧 2021 資料編

(7) 交通

1) 島内の交通手段

小豆島においては、航路、バス、タクシー等多様な公共交通が運行しているが、バスの本数やタクシー台数等は少ない状態である。



図 2.1-22 地図でみる公共交通ネットワーク

表 2.1-14 交通手段

手段	ルート等	備考
航路	土庄港 池田港 草壁港 坂手港 福田港 大部港	高松～小豆島 (土庄) フェリー・高速船 新岡山～小豆島 (土庄) フェリー 宇野～豊島～小豆島 (土庄) フェリー・旅客船 高松～小豆島 (池田) フェリー 高松～小豆島 (草壁) フェリー【運休中】・高速船【運休中】 神戸～小豆島 (坂手) ～高松 (高松東港) フェリー 姫路～小豆島 (福田) フェリー 日生～小豆島 (大部) フェリー
路線バス	小豆島内	坂手線・南廻り福田線 北廻り福田線 四海線 西浦線 中山線 神懸線【季節運行】 田ノ浦映画村線
町営バス	豊島内 小豆島内	豊島シャトルバス (土庄町) 三都線 (小豆島町)
スクールバス	学区内	土庄中学校、土庄小学校、豊島中学校 (11-2月のみ)、豊島小学校 小豆島中学校、池田小学校、星城小学校、安田小学校
福祉バス	土庄町内	四海 (滝宮)、北浦 (空地・ナベウ) 大鐸 (小馬越・笠滝)
乗合タクシー	小豆島町内	小蒲野～池田港ターミナル前【事前登録制・予約制】
その他	小豆島内 豊島内	タクシー、レンタカー、レンタサイクル タクシー、レンタサイクル

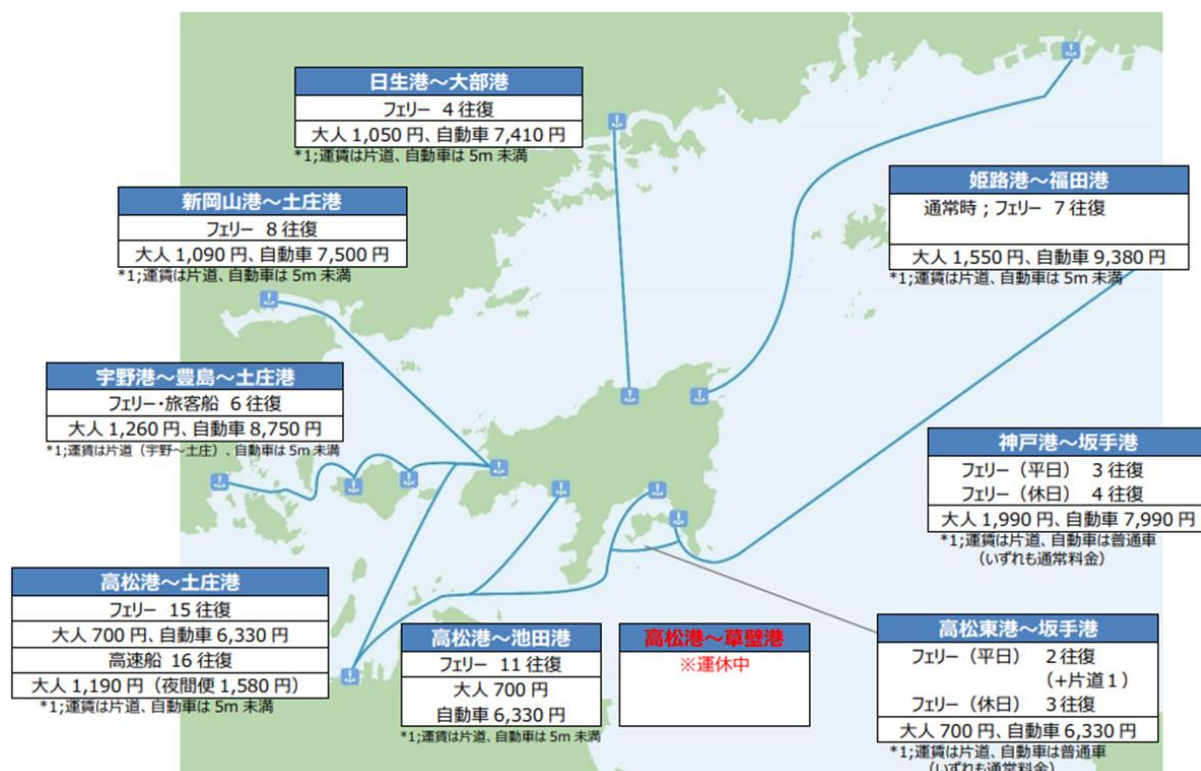
出典：小豆島地域公共交通計画／小豆島町

① フェリー

A) 航路

小豆島へ訪れるにはフェリーに乗船する必要があり、島内には、池田港・土庄港・坂手港・福田港・大部港(2023年12月より休止)・草壁港(休止中)がある。

小豆島ふるさと村の最も近くに位置する池田港では、高松港を結ぶ便が約1時間に1本、1日11便運航している。



※日生港～大部港は現在休止中

出典：小豆島地域公共交通計画／小豆島町

図 2.1-23 フェリー航路

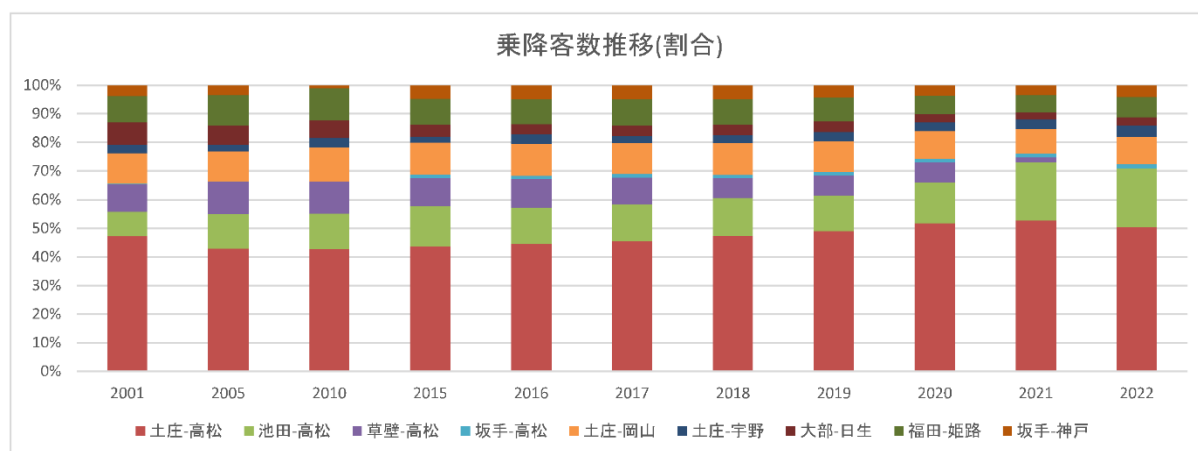
B) 乗降客数

新型コロナウイルス感染症流行前の 2019 年と比較すると、坂手-高松、土庄-宇野が 85%前後、土庄-高松、池田-高松（休止中の草壁-高松含む）が 75%前後までの回復率となっており、航路によって回復率に差が出ている状況である。最も多いのは土庄-高松方面である。

表 2.1-15 方面別乗降客数の推移

	土庄-高松	池田-高松	草壁-高松	坂手-高松	土庄-岡山	土庄-宇野	大部-日生	福田-姫路	坂手-神戸
2001	1,392,871	251,494	280,042	6,493	314,164	84,419	233,794	266,166	113,079
2005	1,312,703	370,282	346,969	1,286	321,785	70,387	205,095	326,065	106,033
2010	1,254,785	362,989	330,482	0	349,120	92,781	182,856	327,541	31,619
2015	1,273,907	410,819	287,326	35,380	322,382	64,288	120,205	262,691	141,522
2016	1,342,935	387,599	298,246	37,836	335,128	99,983	111,025	258,341	151,344
2017	1,329,124	377,143	270,760	35,233	317,226	74,309	106,727	268,787	142,369
2018	1,349,678	378,421	193,929	33,949	313,337	78,581	104,429	255,500	139,619
2019	1,499,301	381,741	213,959	34,515	328,100	98,907	116,791	253,298	132,651
2020	950,883	262,170	127,990	22,385	178,035	55,991	53,277	118,991	66,114
2021	941,528	362,717	30,133	23,706	154,739	58,174	45,898	106,387	62,614
2022	1,112,571	450,441	0	29,815	209,873	85,603	64,968	156,886	91,039

出典：2022 年小豆島各港別乗降客等調査表／小豆島観光協会



出典：2022 年小豆島各港別乗降客等調査表／小豆島観光協会

図 2.1-24 方面別乗降客数(割合)の推移

A) 路線

小豆島オリーブバス 路線図

(令和5年3月16日改訂)

Legend:

- 坂手線・南廻り福田線
- 北廻り福田線 (1)
- 北廻り福田線 (2)
- 四海線
- 西浦線
- 三都西線 (小豆島町営バス)
- 中山線
- 寒霞溪急行線
- 田ノ浦映画村線

2-30

B) 利用者数

小豆島町及び路線毎の利用者数は以下のとおり。瀬戸芸が開催されている年度は比較的用户数が多くなっている。

表 2.1-16 バス利用者数推移

年度	利用者数(人)	備考
H24 年度	336,410	
H25 年度	493,513	瀬戸芸 77 日
H26 年度	441,278	瀬戸芸 31 日
H27 年度	407,262	
H28 年度	518,442	瀬戸芸 78 日
H29 年度	659,780	瀬戸芸 30 日
H30 年度	704,012	
R1 年度	814,707	瀬戸芸 72 日
R2 年度	580,465	瀬戸芸 35 日(コロナ禍)

出典：小豆島地域公共交通計画／小豆島町

■ 三都西線

〔三都線の状況〕

三都線は小豆島町における町営バスであり、(株)かんかけタクシーが委託運行を行っている。H28年度より東線と西線の2路線で運行していた。

最近4ヶ年の平均でみると、東線については、年間利用者約800人に対し収支は約476万円の赤字、利用1回当たりの町負担金は約6,500円となっている。同様に西線については、年間利用者約13,500人に対し収支は約426万円の赤字、利用1回当たりの町負担金は約200円となっている。

令和3年6月1日より、一定の利用者数が見込める三都西線は増便（6便/日→7便/日）し、三都東線については、バス運行を廃止し、事前登録制・予約制の乗合タクシーを導入している。

表 2.1-17 三都線の収支状況

▼三都線の状況			(単位：円)				
			平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	平均
全 体	乗車人数		13,146人	11,019人	11,324人	21,576人	14,300人
	収入	運行収益	4,650,860	3,602,323	3,762,722	5,984,482	4,500,000
		補助金	1,325,000	4,218,000	4,317,000	3,619,000	3,370,000
	支出	運行費用	15,841,318	16,783,160	17,258,781	17,656,795	16,885,000
	収支		△ 9,865,458	△ 8,962,837	△ 9,179,059	△ 8,053,313	△ 9,015,000

			(単位：円)				
			平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	平均
東 線	乗車人数		851人	773人	709人	728人	800人
	収入	運行収益	291,289	252,482	236,761	208,938	247,000
		補助金	1,325,000	4,218,000	4,317,000	3,619,000	3,370,000
	支出	運行費用	5,327,169	4,771,683	4,906,908	5,020,069	5,006,000
	収支		△ 5,035,880	△ 4,519,201	△ 4,670,147	△ 4,811,131	△ 4,759,000
	1 便あたりの収益		200	231	216	191	200
	1 便あたりの経費		3,649	4,358	4,481	4,585	4,000
	1 便あたりの収支		△ 3,449	△ 4,127	△ 4,265	△ 4,394	△ 4,000
西 線	1 人輸送するために町が負担する金額		5,918	5,846	6,587	6,609	6,537
	乗車人数		12,295人	10,246人	10,615人	20,848人	13,500人
	収入	運行収益	4,359,571	3,349,841	3,525,961	5,775,544	4,253,000
		補助金	1,325,000	4,218,000	4,317,000	3,619,000	3,370,000
		計	5,684,571	7,567,841	7,842,961	9,394,544	7,623,000
	支出	運行費用	10,514,149	12,011,477	12,351,873	12,636,726	11,879,000
	収支		△ 4,829,578	△ 4,443,636	△ 4,508,912	△ 3,242,182	△ 4,256,000
	1 便あたりの収益		2,596	3,456	3,581	4,290	3,500
	1 便あたりの経費		4,801	5,485	5,640	5,770	5,400
	1 便あたりの収支		△ 2,205	△ 2,029	△ 2,059	△ 1,480	△ 1,900
	1 人輸送するために町が負担する金額		393	434	425	156	204

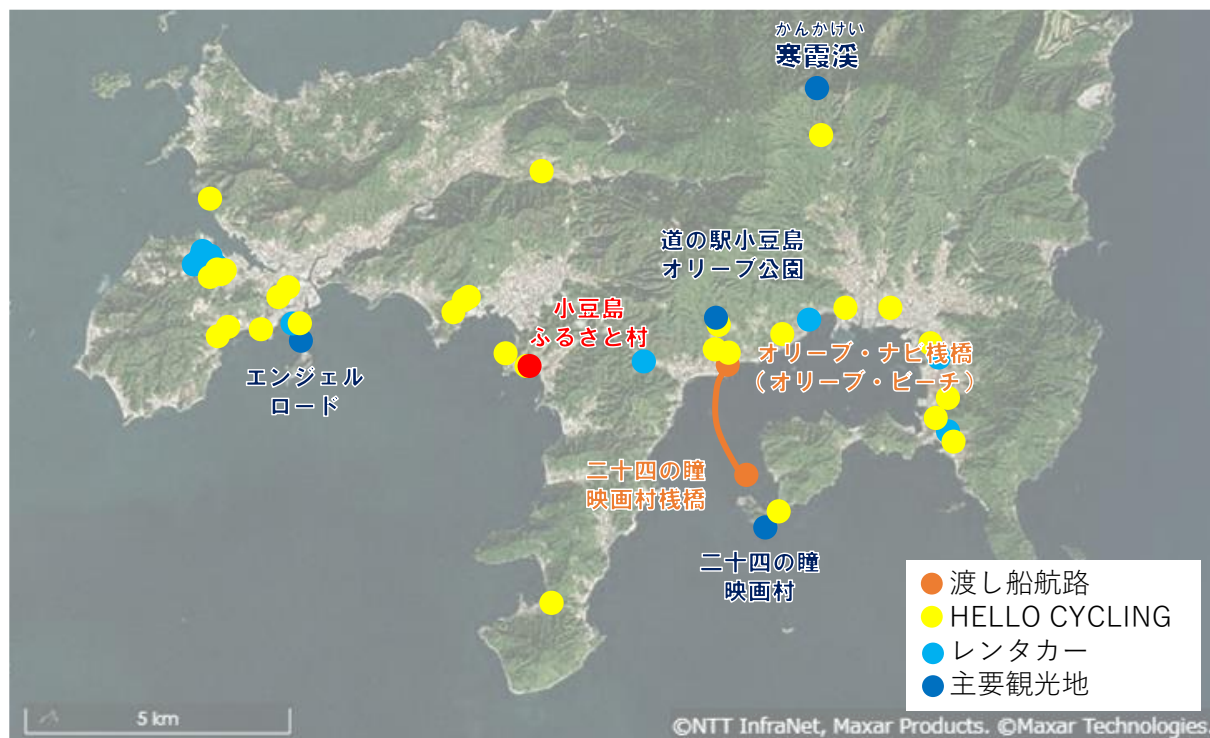
資料) 小豆島町資料より

出典：小豆島地域公共交通計画

③ その他

島内ではレンタカー、タクシー、定期観光バス、レンタルバイク等が利用されており、「HELLO CYCLING」等のシェアサイクルも設置されている。タクシーは旧三都東線の区間において事前予約制の乗り合いタクシーを運行している。

その他には、オリーブ・ナビ桟橋～二十四の瞳映画村桟橋を繋ぐ渡し船がある。



出典：HELLO CYCLING HP／OpenStreet 株式会社、二十四の瞳映画村 HP／二十四の瞳映画村から整理

図 2.1-26 その他交通手段

2)乗降客数の比較

月別の車両乗降数は以下のとおり。2021 年と比べるとバスとマイクロバスが大幅に増加している。乗用車、二輪車も増えているが、コロナ前の 2019 年と比較すると顕著な減少となっている。乗用車については 10%減まで回復していて、旅行形態が団体旅行から乗用車を利用した家族・友人との旅行に大きくシフトしていることがわかる。

表 2.1-18 2022 年の月別車両乗降数

	バス	マイクロ	乗用車	二輪車	トラック	合計	2019年	2021年
1月	52	78	23,189	1,630	8,626	33,575	39,776	27,999
2月	16	35	17,199	1,553	8,356	27,159	34,913	28,603
3月	46	56	29,380	3,585	10,498	43,565	47,842	41,847
4月	100	91	27,902	4,715	9,911	42,719	47,725	34,355
5月	153	112	36,833	7,504	9,726	54,328	61,669	34,458
6月	207	114	24,401	3,239	9,701	37,662	40,746	29,243
7月	117	148	30,886	3,667	10,087	44,905	47,832	43,128
8月	90	91	45,405	4,928	10,373	60,887	65,108	41,181
9月	126	61	27,555	3,504	9,137	40,383	46,762	34,553
10月	229	141	33,679	6,487	10,007	50,543	49,943	43,173
11月	576	254	36,877	5,066	10,359	53,132	57,684	52,882
12月	224	115	28,520	2,270	10,318	41,447	42,493	41,820
計	1,936	1,296	361,826	48,148	117,099	530,305	582,493	453,242

©小豆島観光協会 2023

出典：小豆島観光協会

3) 観光客の移動手段

観光客の移動手段は以下のとおり。外国人観光客のうち78%が「路線バス」を利用し、国内観光客の29%が「路線バス」、27%が「自動車（持ち込み）」を利用している状況である。

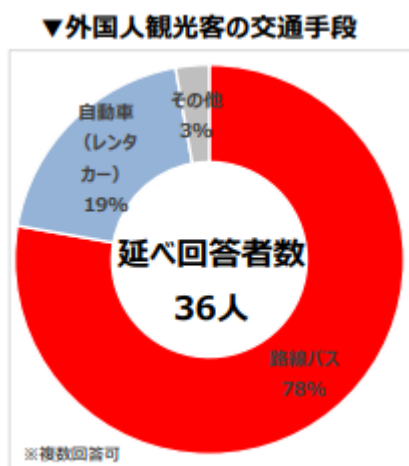
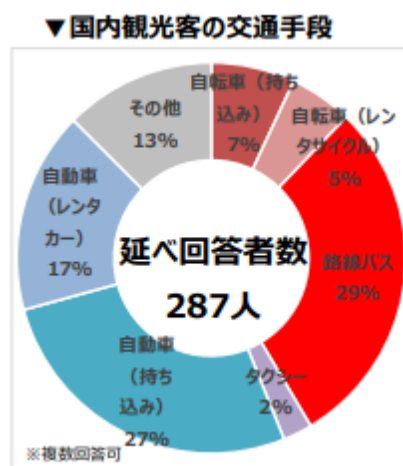


図 2.1-27 外国人観光客の交通手段



出典：小豆島地域公共交通計画／小豆島町

図 2.1-28 国内観光客の交通手段

2.1.2 事業対象地の整理

事業対象地に関する情報や資料について整理した。

(1) 小豆島ふるさと村の概要

小豆島ふるさと村（以下「ふるさと村」という。）の概要は以下に示すとおりである。

表 2.1-19 小豆島ふるさと村の概要

項目	内容
名称	小豆島ふるさと村
所在地	香川県小豆郡小豆島町室生 2084 番地 1
面積	8.8ha
施設形態	体験型・滞在型ファミリーレクリエーション施設
事業主体	小豆島町
管理団体	一般財団法人小豆島ふるさと村
事業実施年度	既存 昭和 57 年度～昭和 61 年度 第 1 期 工 事 昭和 62 年度～平成 3 年度 第 2 期 工 事 平成 4 年度～（平成 16 年 3 月まで）
事業費	既存 1 51,410 千円 第 1 期 工 事 2,205,215 千円 第 2 期 工 事 1,235,762 千円
国支援事業	文 部 省 社会体育施設整備事業 農 林 水 産 省 新農村地域定住促進対策事業 〃 新山村振興等農林漁業特別対策事業 〃 中山間地域総合整備事業 運 輸 省 観光レクリエーション地区整備事業 国 土 庁 リフレッシュふるさと推進モデル事業 自 治 省 ふるさと創生事業 〃 過疎・辺地対策事業
県支援事業	環境自然保護課 緑化推進モデル事業 〃 ふるさとふれあいの森整備事業 社 会 福 祉 課 福祉のふるさと推進事業 水 産 課 水産振興対策事業 観 光 振 興 課 観光施設整備事業（観光地イメージアップ 補助事業） 道 路 建 設 課 単独県費補助道路事業 港 湾 課 港湾事業県費補助事業 土 地 改 良 課 単独県費かんがい排水事業 地 方 課 自治振興資金貸付事業

1) 施設概要

ふるさと村敷地内にある施設の概要は、以下に示すとおりである。

表 2.1-20(1) 施設概要

施設名	施設内容
総合管理棟	木造平屋建 348.87 m ² 事務室・道の駅受付・喫茶店
地場産品販売所	木造鉄骨建 62.7 m ² 売店
エントランス広場	面積 1,300 m ²
夢想館	ブロック造二階建 342.9 m ² 美術展示室・夢工房
手延そうめん館	鉄骨一部二階建 495.19 m ² 倉庫 31.64 m ² 実演コーナー・喫茶売店
グラウンド	面積 10,500 m ² 更衣室・倉庫・バックネット・ベンチ 夜間照明灯 6 基 (1000W×18～24 灯)
体育館	鉄骨コンクリート造 596.65 m ² 倉庫 (イベント用) 78.5 m ²
テニスコート	面積 3,118 m ² 全天候型 4 面 夜間照明付
イベント広場	面積 4,120 m ² 天然芝 ゲートボール 6 面 開閉式屋根 2,990 m ²
オリビアンシアター	ブロック造 51 m ² イベント広場野外ステージ
プロムナード (イベント広場海側)	L=138m W=3.0m
ファミリープール	面積 5,800 m ² ウォータースライダー・流水プール 他 2
プール管理棟	木造平屋建 109 m ² コインロッカー・温水シャワー
ワインハウス	鉄骨木造平屋建 386 m ² 多目的ホール・厨房・コワーキングスペース
駐車場	面積 4,871 m ² 2 カ所 大型 8 台・普通車 128 台収容
遊歩道	L=1,530.5m W=3.0m 探索道 L=667m W=2.8m
休憩園地 (交流センター西側)	面積 2,160 m ² 2 カ所 パーゴラ・ベンチ
釣り場施設	釣り桟橋 L=70m 波止場 L=40m
釣り場管理棟	鉄筋コンクリート平屋建 145 m ² ロビー・トイレ・艇庫
ふるさとロッジ小豆島	鉄筋コンクリート平屋建 830 m ² 和室 11 室 (身障者用 1 室) 収容定員 62 名

表 2.1-20(2) 施設概要

施設名	施設内容
交流センター	鉄筋コンクリート平屋建 417.16 m ² 収容定員 90 名 多目的ホール 180 m ² 受付・事務室・湯沸室・トイレほか
ファミリーロッジ	木造平屋一戸建 49.53 m ² ×11 棟 収容定員 66 名 消火栓 1 基
オートキャンプ場	面積 4,573 m ² 23 サイト (トイレ・シャワー完備内 16 サイト) トレーラーハウス 2 台 オートキャビン 木造平屋 4 棟 フリーキャンプ 13 張 管理棟 木造平屋建 156 m ² バーベキューハウス 木造平屋建 24 m ² 炊事棟 鉄筋コンクリート造 24 m ² トイレ (身障者用 1 基) 木造平屋建 45 m ² 防火水槽 40t 1 基 連絡道新設 L=820m W=5~7.0m 舗装 754m 駐車場舗装 アスファルト 324 m ² コンクリート 109 m ²
国民宿舎小豆島	鉄筋鉄骨コンクリート 3 階建 (一部 4 階) 延床面積 2,887.82 m ² 洋室 (3 人用 8 室 3 人用 DX1 室 2 人用 1 室【身障】) 宿泊定員 107 名 和室 (8 人用 1 室【松】 4 人用 16 室 3 人用 2 室) 広間畳 (桜 28 菊 28 梅 21 松 15) 大会議室 (孔雀・扇 175 m ²) ロビー 163.6 m ² 食堂 234.3 m ²
交流広場	整備面積 2,250 m ² あずまや 1 基 外灯 2 基 遊具 2 基
山羊ふれあいハウス	山羊小屋 5 m ² 物置 3 m ² 運動広場 20 m ² (5m×4m)
交流ふれあい農園	パイプハウス 3 棟 1,716 m ² (1 号棟 720 m ² 2 号棟 456 m ² 3 号棟 540 m ²) 管理棟 (鉄骨プレハブ造り) 48.6 m ² 屋外便所 (大 1 小 1 手洗い 1)
城山公園	面積 2,500 m ² 東屋・トイレ他

出典：小豆島ふるさと村 事業経過・施設概要（小豆島町）より作成

2) 事業経過

ふるさと村の事業経過は、以下に示すとおりである。

表 2.1-21 事業経過

時期	事業内容
昭和 49 年 7 月	国民宿舎「小豆島」供用開始
昭和 56 年 3 月	室生理立地竣工
昭和 58 年 3 月	室生体育館完成
昭和 59 年 3 月	町民運動場完成
昭和 60 年 3 月	テニスコート 2 面完成
昭和 61 年 4 月	(財)日本観光開発財団観光レクリエーション地区整備事業の計画調査実施決定
昭和 61 年 5 月	(財)日本観光開発財団現地調査実施
昭和 62 年度	観光レクリエーション地区整備事業整備計画を運輸省に提出 新農村地域定住促進対策事業の計画樹立 用地買収に着手
昭和 62 年 3 月	テニスコート 2 面完成
昭和 63 年度	新農村地域定住促進対策事業着工 単独県費補助事業
平成元年度	観光レクリエーション地区整備事業着工 リフレッシュふるさと推進モデル事業着工 過疎対策事業着工 ふるさと創生事業・夢館建設着工
平成 2 年 12 月	テニスコート照明設備完成
平成 3 年 4 月	管理運営団体(財)小豆島ふるさと村公社設立 手延そうめん館供用開始 (新定住事業)
平成 3 年 6 月	総合管理棟・夢館・釣り桟橋・ワインハウス供用開始
平成 3 年 7 月	ファミリープール供用開始
平成 3 年 9 月	イベント広場供用開始
平成 4 年 5 月	ふるさとロッジ小豆島供用開始 小豆島ふるさと村開村式 (5 月 31 日)
平成 4 年 7 月	ファミリーロッジ・オートキャンプ場・デイキャンプ場供用開始
平成 5 年 3 月	イベント広場開閉式テント屋根完成
平成 8 年 8 月	建設省「道の駅」に認定
平成 10 年 3 月	町民運動場照明設備完成
平成 12 年 2 月	地場産品販売所 (ふるさと物産館) 完成
平成 13 年 1 月	ふるさとロッジ浴室増築完成
平成 14 年 2 月	交流センター (ふるさとロッジ増築) 完成
平成 14 年 4 月	(財)小豆島国民休養地公社を(財)小豆島ふるさと村公社に統合
平成 14 年 12 月	交流ふれあい農園開園
平成 15 年 8 月	讃岐コーチンふれあいハウス完成
平成 15 年 12 月	酒類小売り免許 (ワインハウス) 取得
平成 18 年 1 月	レンタカー事業免許取得
平成 18 年 4 月	「小豆島ふるさと村」の指定管理者の指定を受ける
平成 18 年 5 月	「海の駅」に認定
平成 25 年 4 月	一般財団法人に認定
平成 29 年 4 月	一般財団法人「小豆島ふるさと村」に社名変更
令和 4 年 4 月	ワインハウスを改修し、テレワーク拠点施設「うみちかふらっと」完成

(2) 小豆島ふるさと村及び周辺の土地状況

1) 小豆島ふるさと村管理対象区域

小豆島ふるさと村の管理対象区域（8.8ha）は以下のとおり。

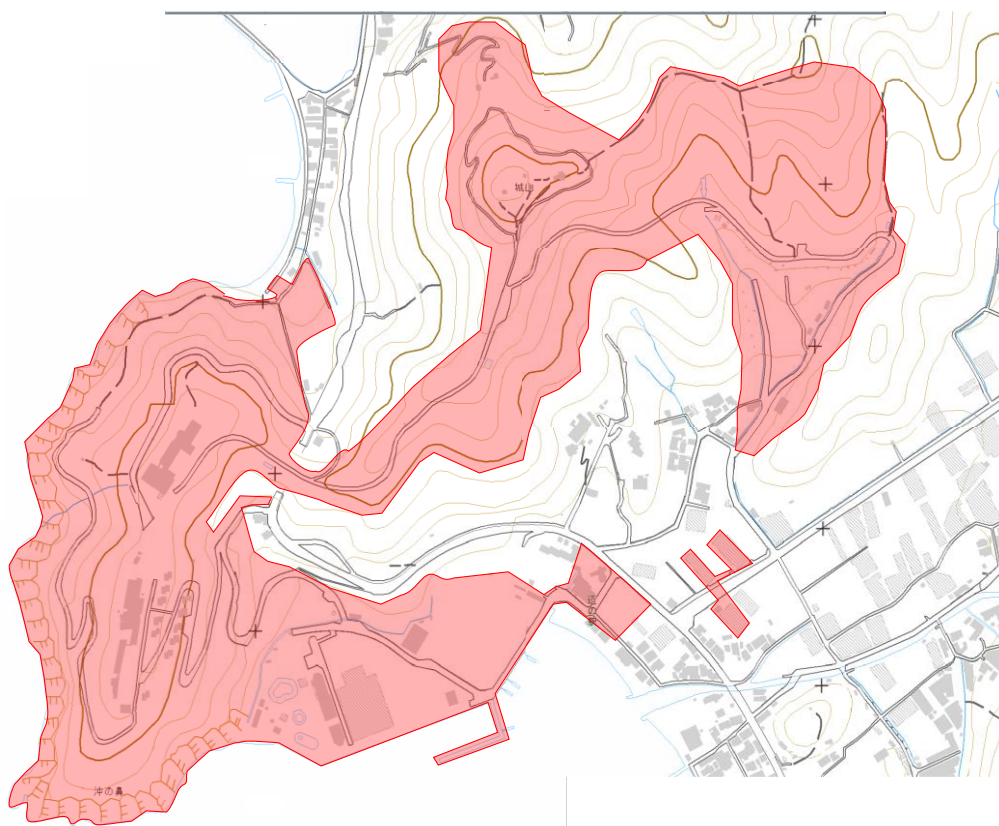


図 2.1-29 管理対象区域

2) 小豆島ふるさと村町有地・私有地（民地）

小豆島ふるさと村周辺の町有地区域は以下のとおり（赤塗り）。赤塗り箇所以外は私有地（民地）である。

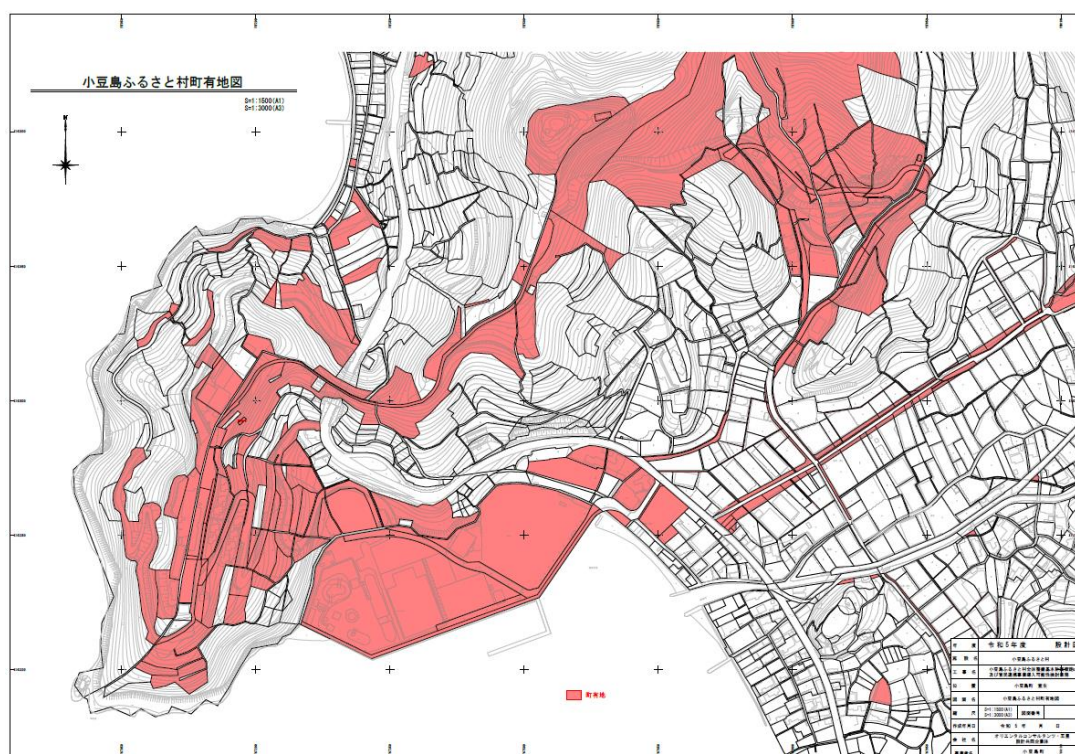


图 2.1-30 町有地

3) 小豆島ふるさと村周辺の町道

小豆島ふるさと村周辺の町道は以下のとおり。

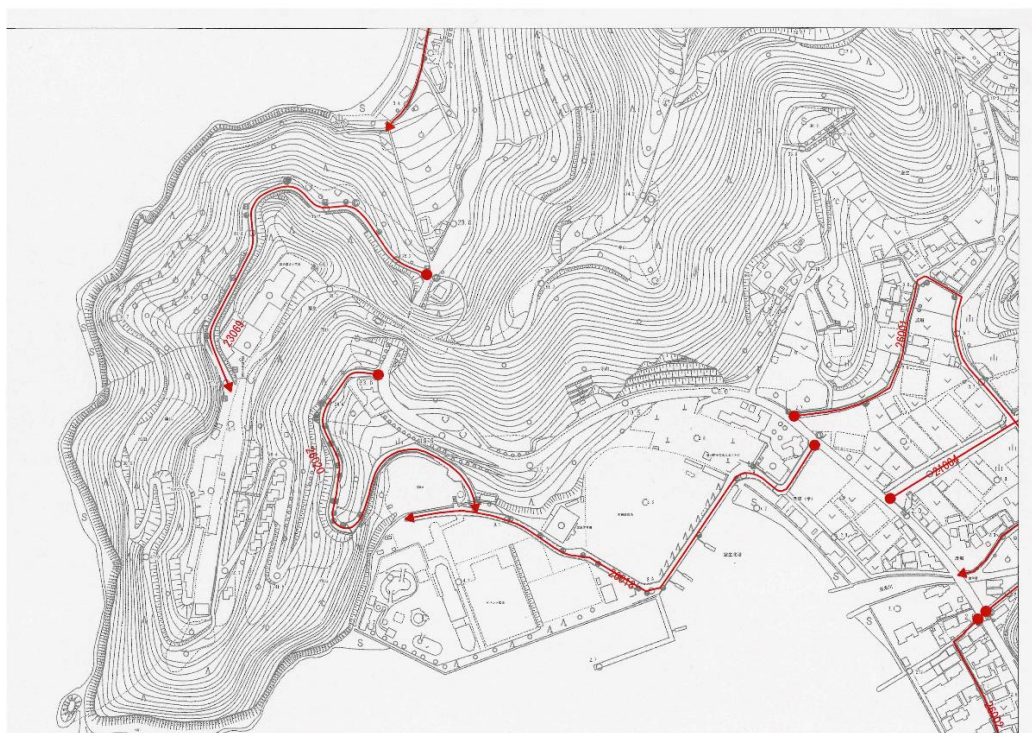


図 2.1-31 町道図

4) ハザードマップ

① 土砂災害ハザードマップ

小豆島ふるさと村の一部には土石流の警戒区域が含まれている。



出典：小豆島町土砂災害ハザードマップ HP／小豆島町

図 2.1-32 土砂災害ハザードマップ

② 津波ハザードマップ

道の駅周辺は浸水深が最大 2.0m の想定である。



出典：小豆島町土砂災害ハザードマップ HP／小豆島町

図 2.1-33 津波ハザードマップ

(3) 小豆島ふるさと村周辺の交通量

令和3年度 全国道路・街路交通情勢調査（道路交通センサス）によると、小豆島ふるさと村を通る県道250号三都港平木線の24時間交通量は、2,363台となっている。

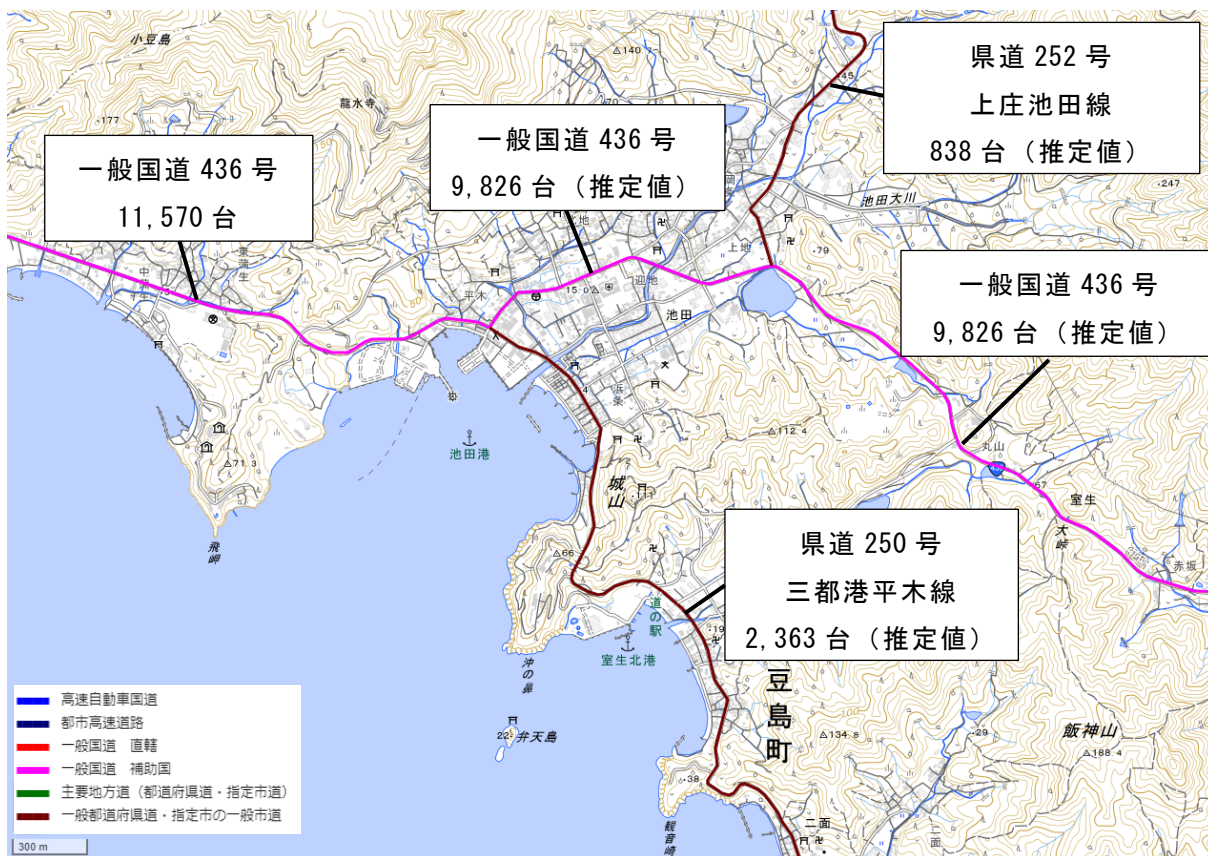


図 2.1-34 小豆島ふるさと村周辺の交通量

(4) 小豆島ふるさと村の利用状況

1) 小豆島ふるさと村の利用者数

① 延べ利用者数

小豆島ふるさと村の延べ利用者数は、新型コロナウイルス感染症拡大前（2019 年）では 189,757 人／年、拡大後（2022 年）では 87,318 人／年となり、約 54%の減少となっている。

施設別にみると、夢想館、イベント広場、道の駅等の施設の減少率が高くなっている。

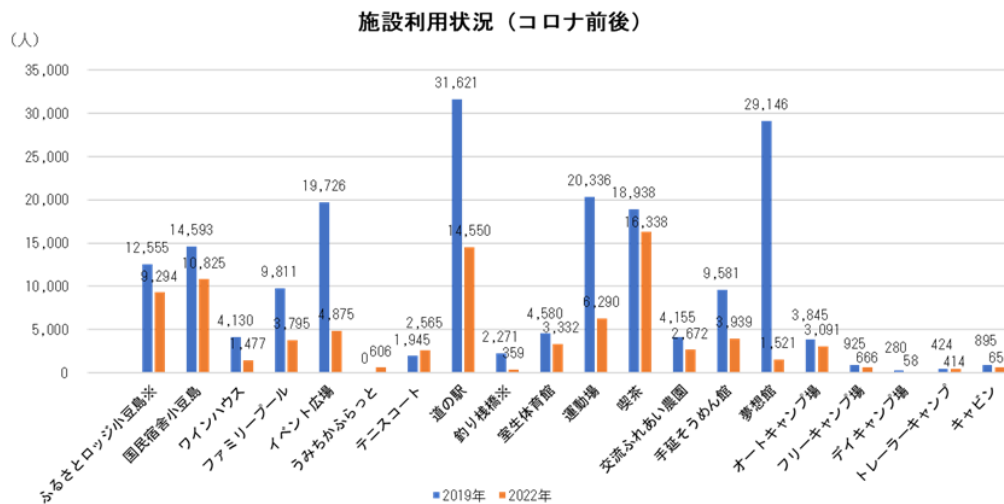


図 2.1-35 施設利用状況（コロナ前後）

② 体育施設（テニスコート・室生体育館・運動場）の年間利用件数

体育館の年間利用件数はテニスコートが 360 件／年、室生体育館が 421 件／年、運動場が 316 件／年となっている。

室生体育館は廃止の方向で検討が進んでいる（社会体育施設等の在り方方針（令和 4 年 4 月）／小豆島町社会体育施設等のあり方検討会）。

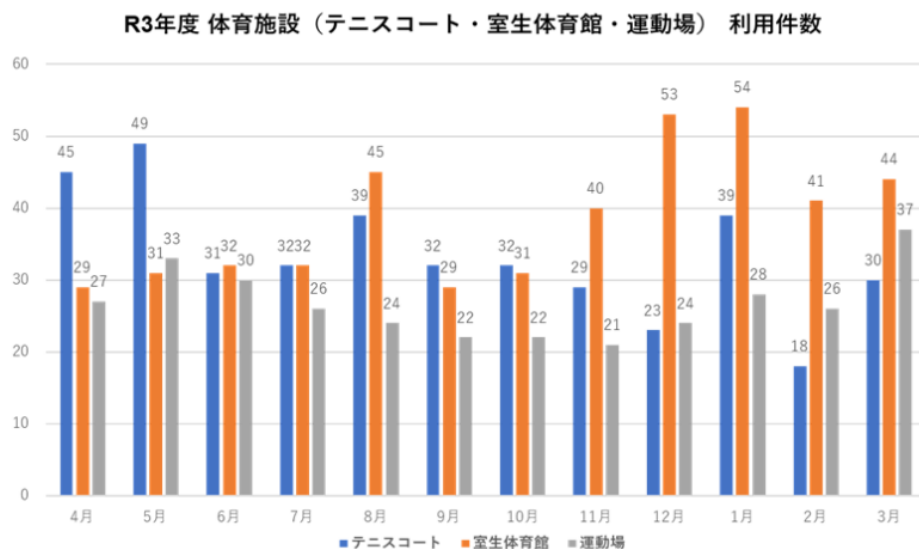


図 2.1-36 令和 3 年度体育施設（テニスコート・室生体育館・運動場）利用件数

③ 宿泊施設利用者数

宿泊施設利用者数は以下のとおり。新型コロナウイルスの影響を受けて減少している年もあるが、概ね令和4年度の宿泊者数は増加傾向にある。

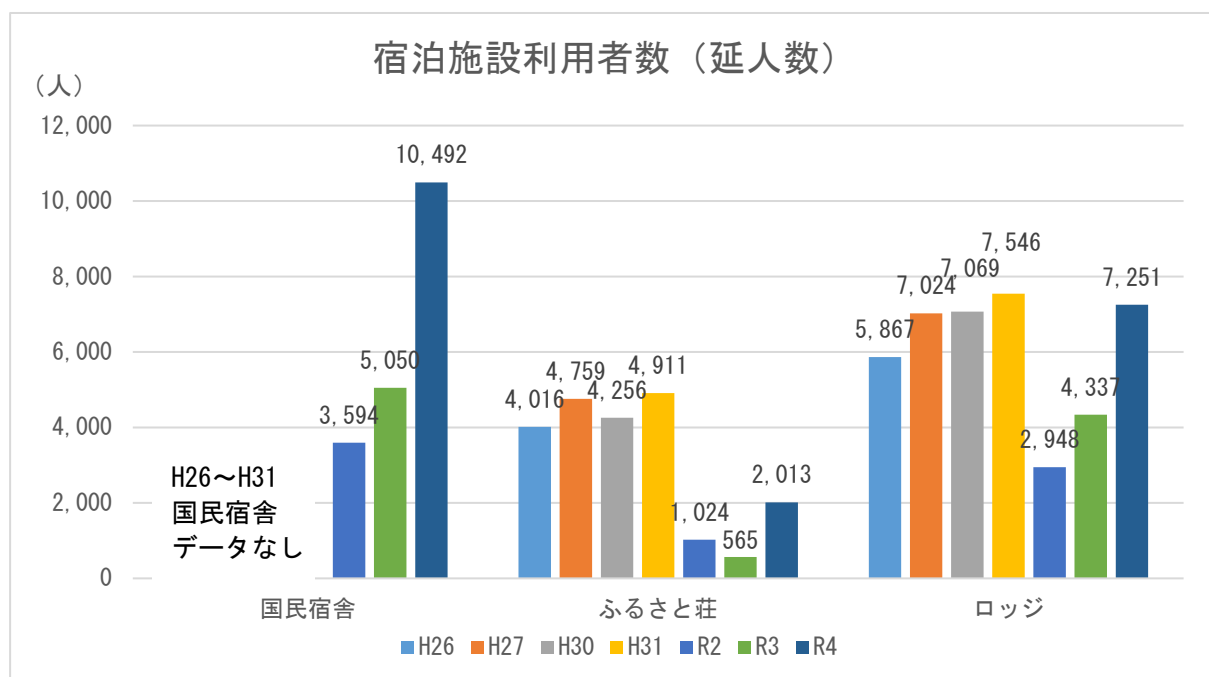


図 2.1-37 宿泊施設利用者数

2)小豆島ふるさと村内のイベント実施状況

① 平成 30 年度イベント実施状況（一部抜粋）

ふるさと村の年間イベント実施状況は以下のとおりである。

表 2.1-22 平成 30 年度イベント実施状況

月	イベント	人数(人)
4	香川大学オリエンテーション	381
	島太鼓とエイサーの集い（イベント広場）	120
	高松大学新入生オリエンテーション	160
5	保育園遠足、幼稚園親子遠足	23
6	稚魚放流	—
	池田小学校遠足	185
	愛知教育大学附属中学校修学旅行体験学習	30
	健康づくり福祉課運動教室	150
7	室生地区弁天まつり（イベント広場）	500
	香川県地区親子海洋教室	50
	農協観光ちびっこツアー体験受入（計 14 回）	530
	京都教育大学附属小中学校（5 年生） 海浜体験学習	107
9	香川大学地域連携実習（G-1 グランプリ）	2,400
	shima fes SETOUCHI 2018	1,600
10	地域活動センター運動会	30
	子どもセンター運動会	70
11	蒲生公民館運動会	80
	田池小学校（2 年）職場見学	6
	小豆島 J C コンサート	500
1	年始イベント（もちつき、うどん教室、焼き芋）	100
2	東かがわ市観光研修	—

② 平成 30 年度大会関連実施状況

ふるさと村の大会等実施状況は以下のとおりである。

表 2.1-23 平成 30 年度大会関連実施状況

大会	人数(人)
グラウンドゴルフ大会	598
ゲートボール大会	572
マリンスポーツ大会	96
デュアルスポーツ	100
サヌキセンチュリーライド	600

3)小豆島ふるさと村内の活動団体

ふるさと村内の活動団体は以下のとおりである。

表 2.1-24 村内活動団体

場所	グループ名	人数(人)	内容・その他
うみちかふらっと (ワインハウス内)	しまにずむ	1	1名担当者 +メンバー
海岸・艇庫	B&G 池田海洋クラブ	30	子どものヨット
海岸緑地スペース	M' s store	-	移動販売
国民宿舎小豆島	ロータリークラブ	-	国民宿舎内に事務所 所有

2.2 周辺地域及び対象地の分析

2.2.1 分析の観点

小豆島及び小豆島ふるさと村の観光振興に資する基本計画を策定するため、周辺エリア及び対象地の分析を実施した。分析にあたっては下図の考え方から、小豆島の観光を特徴づける要素である、「ヒト」「環境」「産業」「移動」の4つの観点で情報を再整理した。

本章で整理した情報と分析の観点の関係性は、次頁に示すとおりである。

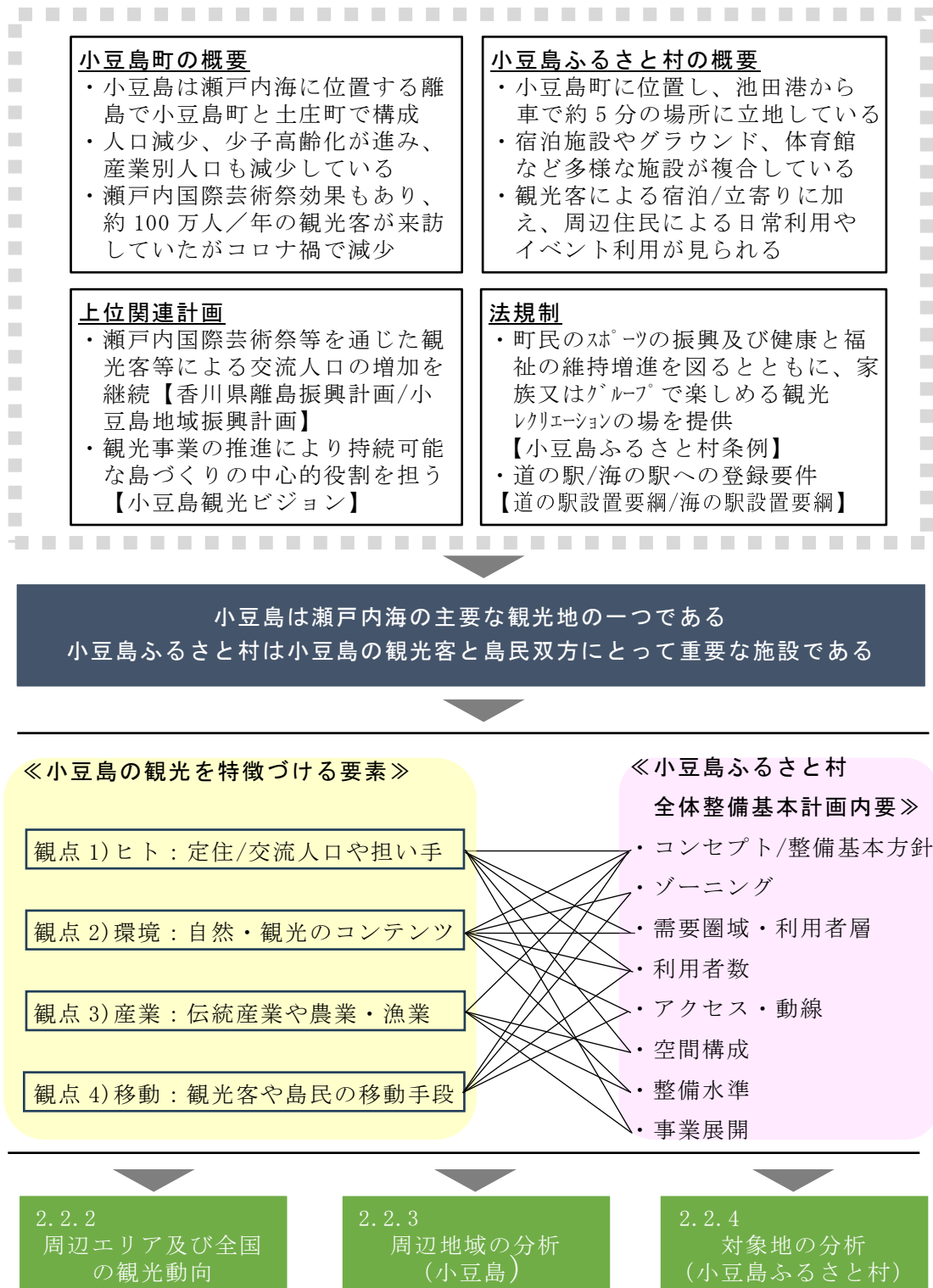


図 2.2-1 敷地分析の観点導出フロー

表 2.2-1 基礎的情報と分析の観点

情報	分析の観点			
	ヒト	環境	産業	移動
周辺及び全国の観光動向	○			
香川県の観光客数	○			
小豆島の人口推移	○			
小豆島の観光客数	○			
小豆島の施設立地状況	○	○		
小豆島の自然・景観・文化資源		○		
小豆島の就業者	○		○	
小豆島の特産品			○	
小豆島内の交通手段				○
小豆島の公共交通網				○
ふるさと村へのアクセス				○
ふるさと村の利用状況	○			
ふるさと村の施設状況		○		
ふるさと村の自然環境		○		

2.2.2 周辺エリア及び全国の観光動向

周辺エリア及び全国の観光動向について、全国的な観光動向と瀬戸内エリアにおける観光動向の2つの観点から整理した結果を以下に示す。

《周辺エリア及び全国の傾向》

1) 全国的な観光動向

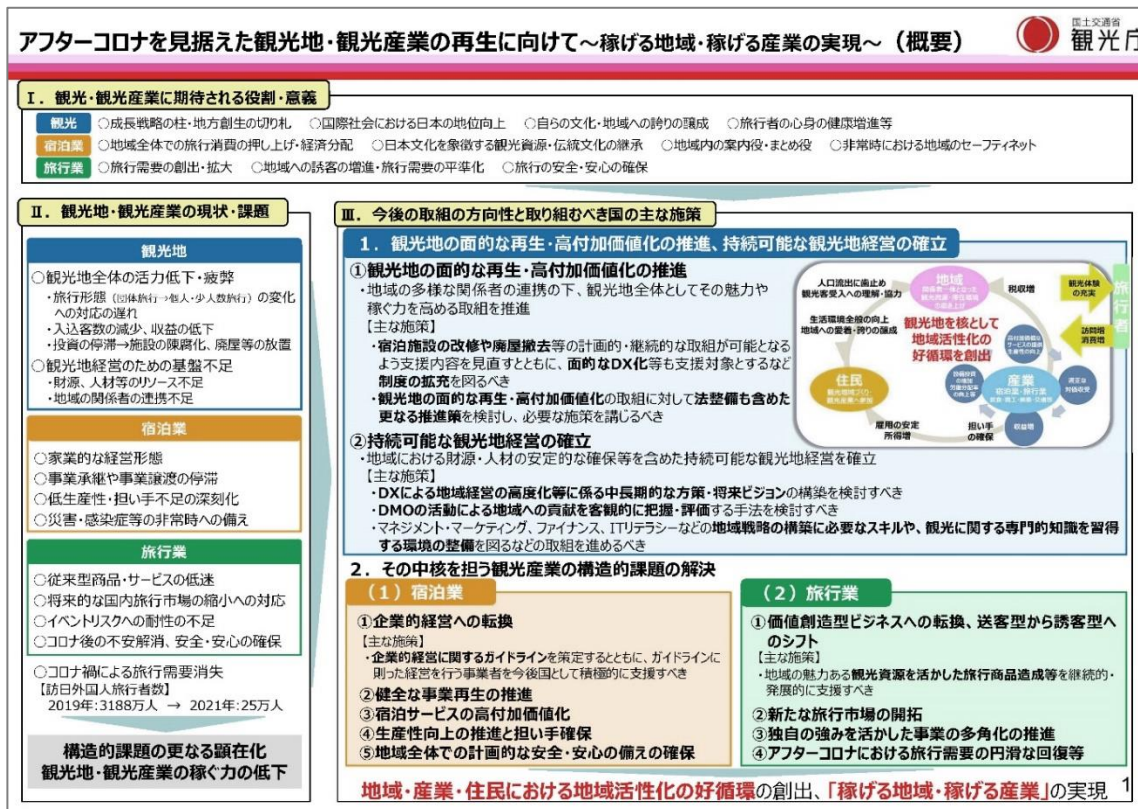
- ・インバウンド市場はコロナ禍から回復し、高い成長率で拡大の見込み
- ・観光地の面的な再生にむけ、観光施設の高付加価値化が推進されている

2) 瀬戸内エリアにおける観光動向

- ・広域連携による瀬戸内海クルーズの取組が推進されている
- ・瀬戸内国際芸術祭による世界・全国からの集客が見込まれる

<参考>

【全国的な観光動向】



出典：アフターコロナを見据えた観光地・観光産業の再生に向けて（概要）/観光庁

図 2.2-2 アフターコロナを見据えた観光地・観光産業の再生に向けて（概要）

Ⅲ. 今後の取組の方向性と取り組むべき国の主な施策②

2. 観光産業の構造的課題の解決 (1) 宿泊業

① 企業の経営への転換

- 【方向性】
・家業的な経営形態からの脱却を促し、データや財務諸表等の活用により、収益の確保、借入金依存からの転換、適切な投資の継続等が可能となる、いわゆる**企業の経営を促進**
- 【主な施策】
・紙台帳等に代わる顧客管理システム導入や一定の会計基準の遵守を盛り込んだ**企業の経営に関するガイドライン**を策定すべき
・上記の**ガイドラインに則った経営を行う事業者**について、**今後国として積極的に支援**すべき



② 健全な事業再生の推進

- 【方向性】
・地域の資産・重要な観光インフラとしての宿泊施設の再生・有効活用を図るため、**所有と経営の分離、事業承継、事業譲渡、事業再編等の事業再生**を推進
・次世代の経営を担う後継者を中長期的なスパンで計画的に育成し、円滑な事業承継を促進
- 【主な施策】
・債務超過に陥った企業の既往債務の買取、ハンスオン支援等の再生支援を行う**中小企業再生ファンド**等において、**宿泊業等のコロナの影響が大きい業種を重点的に支援**するファンドの組成を促進すべき
・**宿泊業の経営を担う後継者育成**に向け、研修の充実など必要な人材の育成支援を行うべき

③ 宿泊サービスの高付加価値化

- 【方向性】
・それぞれの宿泊施設が自らの特徴を活かす形で、利用者ニーズに応じたハード・ソフト両面での**宿泊サービスの高付加価値化と適正な対価の収受**を図る
- 【主な施策】
・**宿泊施設の改修や廃屋撤去等の計画的・継続的な取組**が可能となるよう支援内容を見直すとともに、**面的なDX化等も支援対象とするなど制度の拡充**を図るべき
・公庫による**観光産業等生産性向上資金等による金融支援を継続**するとともに、今後必要な制度見直しを検討すべき
・国際的に関心が高まっている**SDGsへの対応に関する事項**についても①の**ガイドラインに盛り込む**べき



④ 生産性向上と担い手確保

- 【方向性】
・主体的なレベニューマネジメント等による収益力向上、マルチタスク化・IT化等による業務内容の効率化により、生産性向上を推進
・従業員の待遇・労働環境の改善を図るとともに、外国人労働者を含めた多様な人材を確保
- 【主な施策】
・顧客管理システムの導入を継続的に支援するとともに、IT補助金の活用促進を図るべき
・賃上げ等を行う事業者を各種補助事業等において**重点的に支援**すべき

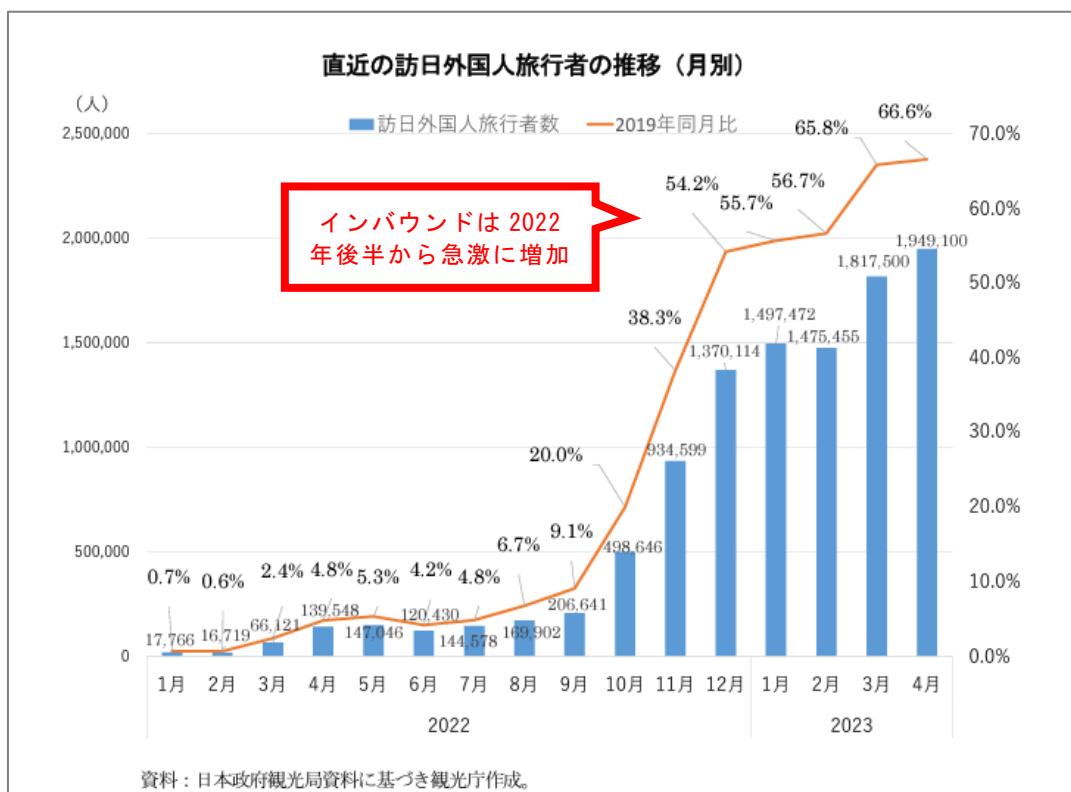
⑤ 地域全体での計画的な安全・安心の備えの確保

- 【方向性】
・非常時に避難所等となる個々の宿泊施設について地域で**事前に明確化**
・避難所等となる施設についてハード・ソフト両面の整備を推進
- 【主な施策】
・個別の宿泊施設と自治体との**災害連携協定締結等を促進**すべき
・被災者等の受入先となる一定の宿泊施設における**耐震性強化や居室等のバリアフリー化等のハード整備**の支援を検討すべき



出典：アフターコロナを見据えた観光地・観光産業の再生に向けて（概要）/観光庁

図 2.2-3 アフターコロナを見据えた観光地・観光産業の再生に向けて（概要）



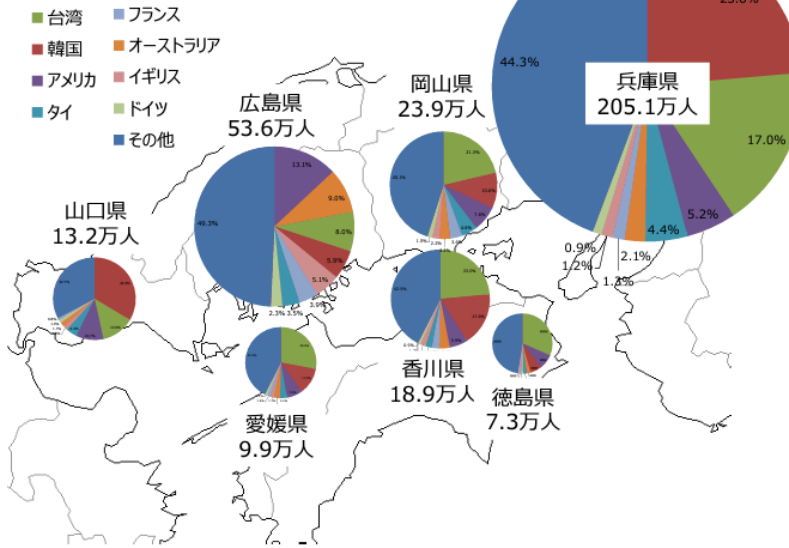
出典：観光白書（令和4年度版）

図 2.2-4 直近の訪日外国人旅行者の推移

(1) 瀬戸内エリアへの来訪属性からみる課題と方向性

瀬戸内地域の年間外国人来訪者数：3,318,881人

重点8ヶ国外国人来訪者総数：1,838,655人



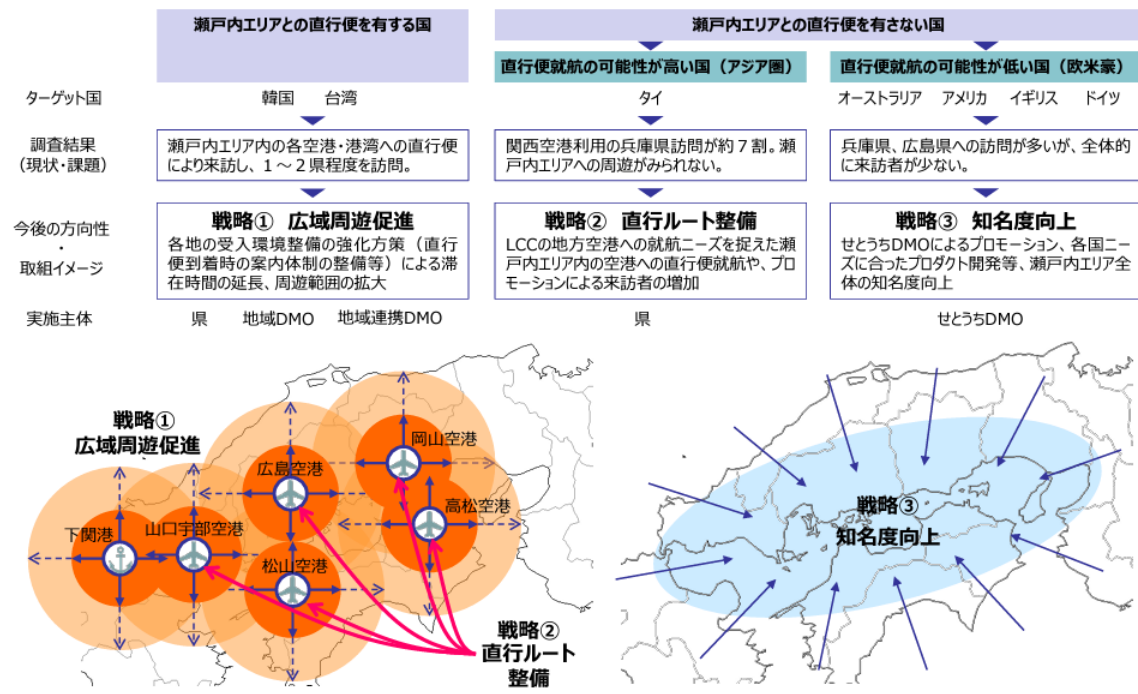
<来訪属性からみる課題>

- ・関西空港利用による関西地域周遊行動がみられ、兵庫県には多くの外国人観光客が訪問しているが、兵庫県から瀬戸内エリアへの周遊に繋がっていない。
- ・「広島」の知名度により広島県には欧米豪を中心に多くの外国人観光客が訪問しているが、瀬戸内エリアへの周遊に繋がっていない。
- ・韓国、台湾から、直行便利用により各県に観光客が訪問しているが、1～2県の周遊に留まっており、瀬戸内エリアへの周遊に繋がっていない。
- ・タイからの観光客は各県とも少ない。

<周遊促進の方向性>

- ・隣接圏域（関西圏、九州圏）からの周遊範囲の拡大を図るため、瀬戸内エリアとしての認知度向上を図るとともに、広域周遊交通バス等交通利便性の確保、各地域の満足度の向上が求められる。
- ・域内空港への直行便利用は、瀬戸内エリアにとって地域内での長い滞在時間が期待できる。直行便の新設・増便、体験プログラムの充実等による各地域での滞在時間の延長、域内交通バス等による周遊範囲の拡大が求められる。

(2) 瀬戸内エリア周遊に向けた戦略の考え方



出典：平成29年度広域観光周遊ルート形成促進事業外国人観光客の動態調査（せとうち・海の道）調査結果報告書／せとうちDMO

図 2.2-5 瀬戸内エリアの外国人来訪への打ち手

(3) 県別の来訪属性からみる周遊促進の方向性

	調査結果	瀬戸内エリア周遊に向けた今後の方向性（打ち手）
兵庫県	韓国、台湾を主体に瀬戸内エリアで最も多い外国人観光客の来訪がある。関西圏であり大阪府、京都府との間の流動が主体。神戸地区内周遊は活発であり、滞在時間は比較的に長い。	瀬戸内エリアの東の玄関口として、関西圏を訪れた外国人観光客の瀬戸内エリアへの誘客促進が求められる。神戸市、姫路市での案内所機能の充実や神戸市、姫路市を発着する瀬戸内周遊ツアー造成等により、瀬戸内地域への誘客とともに、兵庫県における宿泊、滞在の増加を図る。
岡山県	台湾が最も多く、域内空港利用と関西空港利用がみられる。広域周遊の際の立ち寄り観光地であり、県内での来訪は岡山市と倉敷市の中心部に集中している。	瀬戸内エリアの交通ハブとして、岡山駅を拠点として各県への周遊を進めることにより、岡山市内における宿泊数の増加を図る。また、東南アジアから岡山空港への直行便就航を図る等、岡山空港利用の外国人観光客増加を図る。
広島県	オーストラリア、イギリスは瀬戸内エリアで最も多いなど、欧米客が主体。そのため、首都圏から高山、金沢、関西圏を経由し広島県を訪れる広域周遊型の観光客が多い。県内では広島と宮島の来訪が多い。	欧米客からの目的地であることを活かし、広島市内での広域情報提供や広域周遊交通バスの開発等により、広島を訪れた人を瀬戸内エリアへ周遊させる。また、各県へ福山、尾道、大久野島等の県内各地へ広島市からの往復移動がみられていることから、広島市発着の日帰り訪問先情報の拡充により、宿泊数の増加を図る。
山口県	九州から訪れる韓国からの観光客が最も多い。福岡県や大分県を訪れて山口県にも来訪しており、瀬戸内エリアの他県への流動は少ない。	瀬戸内エリアの西の玄関口として、「九州＋瀬戸内」を打ち出したプロモーション等、九州から瀬戸内エリアへの誘客促進が求められる。また、広島県まで訪れた欧米客の観光客に対し、宿泊施設等でのPRにより、山口県内への周遊促進を図る。
徳島県	高松空港や関西空港利用の台湾からの観光客が主体であるが、全体として瀬戸内エリアの中では外国人観光客数が少ない。	関西空港や大阪市等からのバス便について、外国人割引や周遊バス等、外国人観光客の利便性向上を図る等、関西圏との近接性を活かしてアジア系観光客。また、祖谷地区等について瀬戸内エリアを代表する欧米客向けコンテンツとして整備する。
香川県	直行便を有する台湾、香港が主体であり、瀬戸内エリアを比較的広域に周遊している。また、欧米客は首都圏から訪れている。	四国の拠点として、高松空港利用による周遊促進を図る。また、直島等、瀬戸内国際芸術祭開催地域について、欧米客だけでなく、アートの関心が高い台湾、韓国等にもプロモーションを行うことが必要である。
愛媛県	台湾が主となり、関西空港、高松空港、広島空港の利用がみられる。香川県を訪れた前後で愛媛県を訪れる人が多い。	四国内周遊に加え、しまなみ海道利用、広島からの船利用等、多様な流入経路を活かした広域周遊ルートを作成し、ツアー造成や周遊マップ、交通バス等による広域周遊を図る。

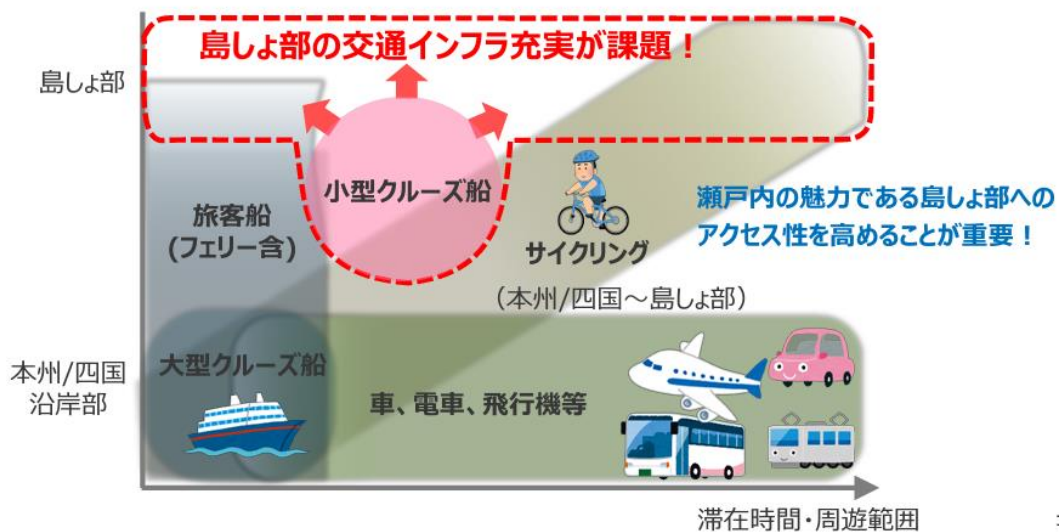
84

出典：平成 29 年度広域観光周遊ルート形成促進事業外国人観光客の動態調査（せとうち・海の道）調査結果報告書／せとうち DM0

図 2.2-6 県外の来訪属性から見る周遊促進の方向性

人口減少・経済縮小が進む島しょ部へ、交流人口を呼び込む**しかけ**として、**小型船による島たび・クルーズ文化**を創り出す！

瀬戸内におけるエリアへの観光目的のアクセシ性 ー交通手段と滞在時間ー



出典：瀬戸内クルーズネットワーク構想／一般社団法人日本プロジェクト産業協議会

図 2.2-7 瀬戸内におけるエリアへの観光目的のアクセシ性

【数値目標】

① 第2期かがわ創生総合戦略（令和4年3月変更）

目標年：令和7年

＜施策の基本的方向＞

（3）交流人口の拡大

瀬戸内海やアート、自然、歴史、文化など本県の豊かな資源の魅力を、国内外からの観光客に楽しんでもいただき、旅行先として「選ばれる香川」になるとともに、MICE誘致や交通ネットワークの充実などに取り組み、交流人口の拡大を推進します。

【具体的な施策】

① 観光かがわの推進

国内外からの多くの観光客から選ばれる香川を目指して、本県独自の地域資源を活用した滞在型観光の推進や観光客の満足度を高めるための受け入れ環境の充実、強化を図るとともに、戦略的な情報発信や誘客活動に取り組みます。

①観光かがわの推進

個別施策	KPI	目標値	現状値
a 滞在型観光の推進	延宿泊者数	コロナ影響前の実績値（令和元年）まで速やかな回復を図る	平成30年：4,048千人
	観光消費額	コロナ影響前の実績値（令和元年）まで速やかな回復を図る	平成30年：1,117億円
b 観光客の満足度向上	県外観光客数	コロナ影響前の実績値（令和元年）まで速やかな回復を図る	平成30年：9,416千人
	延宿泊者数（再掲）	コロナ影響前の実績値（令和元年）まで速やかな回復を図る	平成30年：4,048千人
c 広域観光の推進	県外観光客数（再掲）	コロナ影響前の実績値（令和元年）まで速やかな回復を図る	平成30年：9,416千人
d 戦略的な情報発信	県外観光客数（再掲）	コロナ影響前の実績値（令和元年）まで速やかな回復を図る	平成30年：9,416千人
e 海外観光客誘致の推進	外国人延宿泊者数	コロナ影響前の実績値（令和元年）まで速やかな回復を図る	平成30年：546千人

出典：第2期かがわ創生総合戦略

図 2.2-8 第2期かがわ創生総合戦略

② 小豆島地域公共交通計画

【池田地区における平均乗降客人数目標】

（１）数値目標１

新たな拠点（池田地区）における平均乗降人数を5,000人/月以上

数値目標１については、新たに整備された小豆島中央病院及び小豆島中央高校を拠点としたまちづくりの形成を把握するための指標であり、今回の数値目標は達成された。

拠点性の高い、コンパクト+ネットワークのまちづくりは、人口減少下における当該地域にとって、引き続き重要な施策である。今後、草壁港のフェリー休止を受け、池田港周辺の拠点性・利便性向上はさらに求められることから、引き続き、まちづくりの拠点として池田地区への接続などの強化が求められる。

出典：第２期かがわ創生総合戦略

図 2.2-9 池田地区における平均乗降人数目標

2.2.3 周辺地域の分析

(1) ヒト

「ヒト」の観点として 1)香川県の観光客数、2)小豆島の人口推移、3)小豆島の観光客数に関する基礎情報を整理し、小豆島の現状を整理した。

小豆島町では少子高齢化が進み、コロナ禍を契機とした観光客の減少が島内の観光産業、地場産業を中心とする製造業に大きな影響を与えている。

1)香川県の観光客数

- ・香川県内の主要観光地では、コロナ禍の緊急事態措置の解除や瀬戸内国際芸術祭の開催により前年度よりも入込客数が増加している
- ・香川県旅行者の観光消費金額もコロナ禍から宿泊需要が増加し、上昇傾向にある
- ・外国人観光客は高松駅を拠点に回遊行動がみられる

【香川県の主要観光地入込客数】

2. 主要観光地入込客数（県内客+県外客）

令和4年の県内主要観光地(栗林公園、屋島、琴平、小豆島)への入込客数は、総計3,678千人となり、前年比58.2%の増加となりました。

観光地別にみると、栗林公園が504千人で前年比55.0%の増加、屋島が581千人で前年比64.0%の増加、琴平が1,765千人で前年比80.7%の増加、小豆島が828千人で前年比23.8%の増加となり、すべての観光地で増加となりました。

出典：令和4年香川県観光客動態調査報告（速報版）

図 2.2-10 主要値観光入込客数

【上位関連計画における方針】

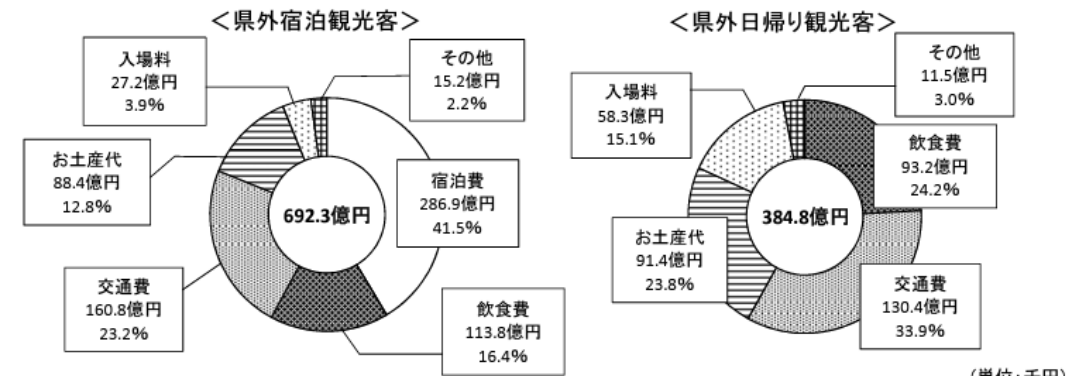
外国人観光客の受入れが再開され、インバウンド需要の獲得に向けて、世界中の観光客で1年間を通して賑わう「観光の島」を目指し、観光ビジョンの策定を検討する。さらに、小豆島内に複数ある観光組織、窓口を1本化し、機能及び発信力の強化を図るとともに、拠点整備を進める。また、大阪・関西万博と瀬戸内国際芸術祭が同時期に開催される令和7年を目指し、小豆島をあげて京阪神との連携を図るとともに、令和3年、令和4年の2年連続で「世界の持続可能な観光地 TOP100選」に小豆島町が選出されたことを契機に、さらなる観光SDGsの推進を図り、国内外からの観光客誘致などの取組みを強化する。

観光客を受け入れるためのインフラの整備にあたっては、「小豆島ふるさと村」をはじめとした老朽化した観光施設において、民間事業者の意向を踏まえた、最適な官民の役割分担に基づいた事業手法等のスキームを検討し、適切な官民連携手法（民間活力）を導入した施設の再整備に取り組む。また、長年放置され問題となっている廃ホテルの撤去と跡地利用を推進する。宿泊を伴う滞在型観光は経済効果が大きいことから、新たなホテル等を誘致する。

出典：香川県離島振興計画

【香川県旅行者の消費金額】

(7) 香川県内での費目別観光消費金額(令和4年)

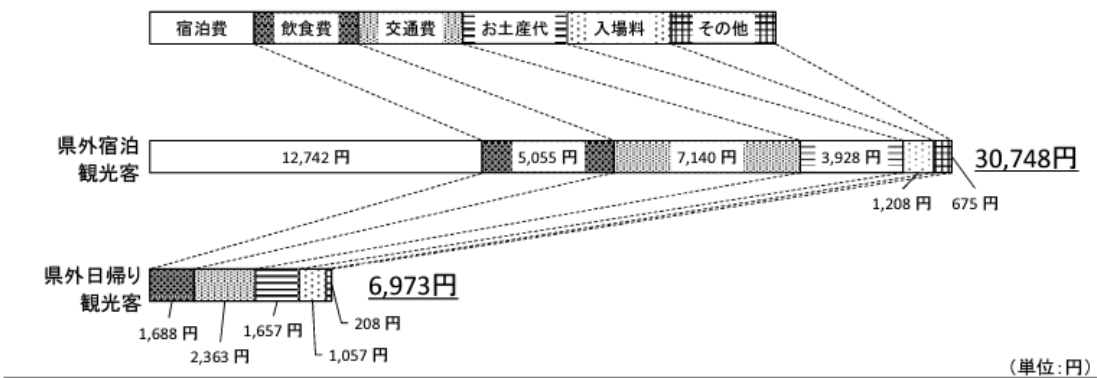


		宿泊費	飲食費	交通費 (ガソリン代、駐車場代含む)	お土産代	入場料	その他 (遊興費・娯楽費等)	合計
令和4年	県外宿泊観光客	28,689,123	11,381,535	16,075,996	8,844,049	2,719,860	1,519,789	69,230,352
	県外日帰り観光客		9,315,160	13,040,121	9,144,088	5,833,013	1,147,840	38,480,222
	計	28,689,123	20,696,695	29,116,117	17,988,137	8,552,873	2,667,629	107,710,574
令和3年	県外宿泊観光客	16,438,924	6,525,087	7,144,520	5,683,701	1,550,760	670,207	38,013,199
	県外日帰り観光客		6,987,243	7,703,436	6,415,163	4,725,123	860,304	26,691,269
	計	16,438,924	13,512,330	14,847,956	12,098,864	6,275,883	1,530,511	64,704,468
令和元年	県外宿泊観光客	34,551,402	14,349,338	12,768,720	11,597,540	2,875,581	1,304,485	77,447,066
	県外日帰り観光客		12,081,033	11,918,215	10,850,135	4,493,753	1,725,862	41,068,998
	計	34,551,402	26,430,371	24,686,935	22,447,675	7,369,334	3,030,347	118,516,064

出典：令和4年香川県観光客動態調査報告（確定版）

図 2.2-11 香川県内での費目別観光消費金額（令和4年）

(8) 1人当たりの平均観光消費金額（金額は、(公社)香川県観光協会実施の「観光客アンケート調査」結果による数値。）



		宿泊費	飲食費	交通費	お土産代	入場料	その他	計
令和4年	県外宿泊観光客	12,742	5,055	7,140	3,928	1,208	675	30,748
	県外日帰り観光客		1,688	2,363	1,657	1,057	208	6,973
令和3年	県外宿泊観光客	11,332	4,498	4,925	3,918	1,069	462	26,204
	県外日帰り観光客		1,600	1,764	1,469	1,082	197	6,112
令和元年	県外宿泊観光客	10,886	4,521	4,023	3,654	906	411	24,401
	県外日帰り観光客		1,855	1,830	1,666	690	265	6,306

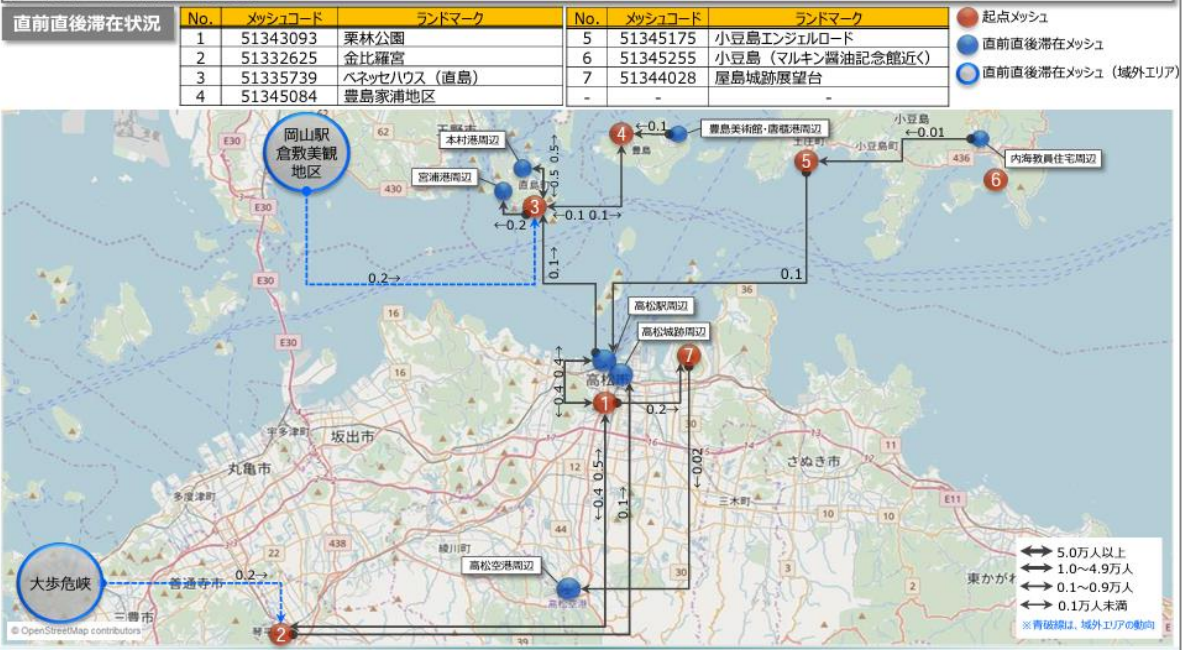
出典：令和4年香川県観光客動態調査報告（確定版）

図 2.2-12 1人当たりの平均観光消費金額

【外国人観光客】

(6) 香川県 ⑩地区内周遊状況（高松・直島・琴平・小豆島地区）

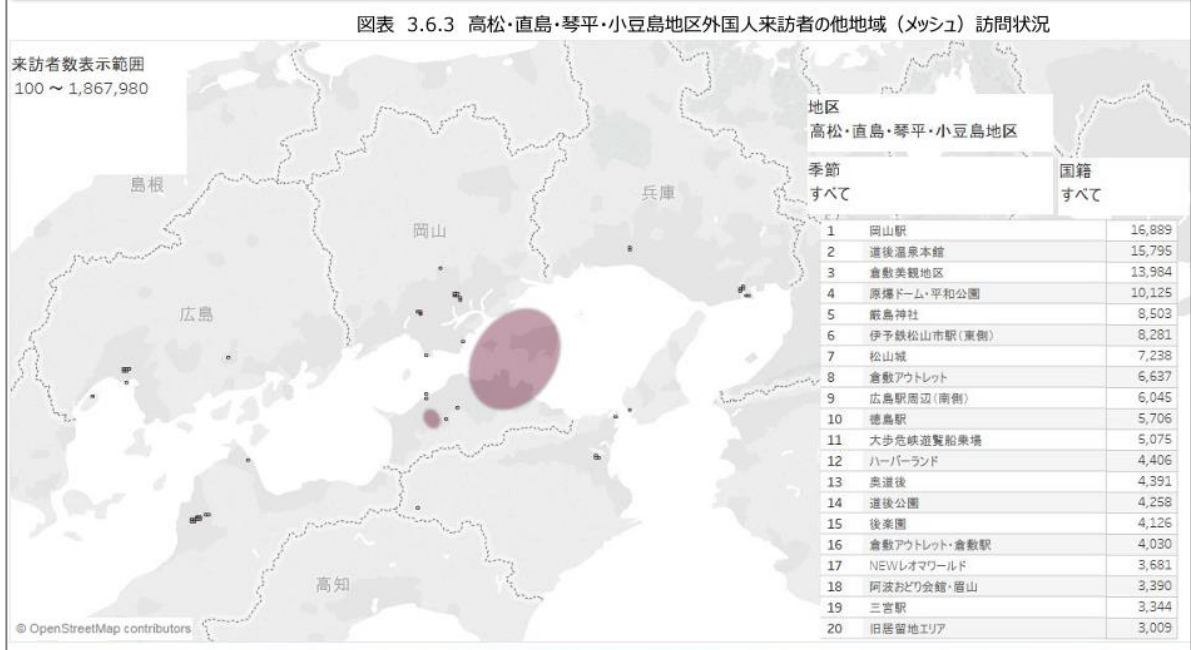
高松・琴平地区を訪れる外国人旅行者は、高松駅エリアを起点に栗林公園、金毘羅宮エリアを周遊している傾向が見られる。旅行者の一部は大歩危エリアから金毘羅宮周辺を訪れ周遊している状況も見られる。岡山・倉敷地区から多くの旅行者が直島・豊島エリアを周遊している状況が見られる。年間を通じて同様の傾向にあり、季節に応じた訪問地の大きな変化は見られない。※小豆島（マルキン醤油記念館近く）については、今回の直前直後滞在調査では、ログデータ僅少のため取得データなし。



(6) 香川県 ③他地域訪問状況（高松・直島・琴平・小豆島地区）

3. 外国人観光客の県別動向

他都市訪問状況について、より詳細に見ると、高松・直島・琴平・小豆島地区を訪れた旅行者が訪問した地域（メッシュ）としては、岡山駅が最も多く、次いで道後温泉本館、倉敷美観地区の順となっている。



出典：平成 29 年度広域観光周遊ルート形成促進事業外国人観光客の動態調査（せとうち・海の道）調査結果報告書／せとうち DMO

図 2.2-13 外国人観光客の動向

2)小豆島の人口推移

- ・小豆島（小豆島町・土庄町）の人口は、減少傾向にある
- ・小豆島町の生産年齢人口は 47.0%で、高齢化率は県平均及び全国平均を大きく上回っている
- ・人材不足の課題解決に向け、地域おこし協力隊による地域活性化や、移住促進の施策を進め、年間移住者数は毎年 100 人を超えている

表 2.2-2 小豆島（小豆島町・土庄町）の人口推移

島名	平成 22 年	平成 27 年	令和 2 年	R2/H27
小豆島	30,167 人	27,927 人	25,881 人	92.7%

減少傾向

出典：香川県離島振興計画

表 2.2-3 小豆島の生産年人口の推移

市 町	総 数	15歳未満 (年少人口)					15～64歳 (生産年齢人口)					65歳以上 (老年人口)				
		実 数	割合(%)			差 (ポイント)	実 数	割合(%)			差 (ポイント)	実 数	割合(%)			差 (ポイント)
			5年	4年				5年	4年				5年	4年		
香 川 県	925,408	106,575	11.8	12.0	△ 0.2		501,761	55.5	55.5	0.0		295,174	32.7	32.5	0.2	
高 松 市	411,288	49,450	12.5	12.7	△ 0.2		229,362	58.1	58.1	0.0		115,919	29.4	29.2	0.2	
丸 亀 市	108,116	14,032	13.2	13.4	△ 0.2		61,004	57.2	57.0	0.2		31,620	29.6	29.6	0.0	
坂 出 市	48,789	5,107	10.5	10.7	△ 0.2		25,534	52.7	52.6	0.1		17,781	36.7	36.7	0.0	
善 通 寺 市	30,448	3,490	11.6	11.8	△ 0.2		17,051	56.7	56.5	0.2		9,541	31.7	31.7	0.0	
観 音 寺 市	55,362	6,221	11.4	11.5	△ 0.1		29,120	53.3	53.4	△ 0.1		19,282	35.3	35.0	0.3	
さ め き 市	44,803	4,016	9.1	9.3	△ 0.2		22,933	52.0	52.1	△ 0.1		17,193	38.9	38.6	0.3	
東かがわ市	26,564	2,194	8.3	8.5	△ 0.2		12,557	47.6	47.8	△ 0.2		11,631	44.1	43.7	0.4	
三 豊 市	59,041	6,393	10.9	11.0	△ 0.1		30,265	51.5	51.5	0.0		22,129	37.6	37.5	0.1	
土 庄 町	12,066	1,117	9.3	9.3	0.0		5,501	45.7	46.1	△ 0.4		5,424	45.0	44.6	0.4	
小 豆 島 町	13,006	1,133	8.7	8.8	△ 0.1		5,945	45.8	45.9	△ 0.1		5,913	45.5	45.3	0.2	
三 木 町	26,291	3,272	12.6	12.7	△ 0.1		14,175	54.5	54.7	△ 0.2		8,552	32.9	32.6	0.3	
直 島 町	3,004	291	9.9	10.1	△ 0.2		1,657	56.5	56.4	0.1		983	33.5	33.5	0.0	
宇 多 津 町	18,752	2,487	13.6	13.8	△ 0.2		11,740	64.1	63.9	0.2		4,082	22.3	22.2	0.1	
綾 川 町	22,071	2,530	11.5	11.4	0.1		11,315	51.4	51.8	△ 0.4		8,153	37.1	36.8	0.3	
琴 平 町	7,938	644	8.1	8.5	△ 0.4		3,903	49.3	49.4	△ 0.1		3,367	42.5	42.0	0.5	
多 度 津 町	21,376	2,256	10.7	11.2	△ 0.5		11,670	55.4	54.7	0.7		7,127	33.9	34.0	△ 0.1	
まんのう町	16,493	1,942	11.8	11.9	△ 0.1		8,029	48.8	49.0	△ 0.2		6,477	39.4	39.1	0.3	

注) 1. 「総数」には年齢不詳を含んでおり、割合は分母から不詳を除いたもので算出している。

2. 割合については、四捨五入処理により合計が一致しない場合がある。

出典：香川県人口移動調査結果(令和 5 年分)の概要

小豆島(小豆島町)における高齢者人口は、令和2年の国勢調査において6,118人で、総人口の44.1%を占めており、県平均及び全国平均を大きく上回っている。今後、高齢者の中でも特に医療や介護が必要となる75歳以上の割合が増加されると予測されていることから、高齢者が健康で生きがいを持ち、住み慣れた地域社会で安心して暮らせるよう、介護予防に取り組むグループ等の活動支援や地域活動の担い手育成、買い物や家事等の生活支援、またボランティアやサロン活動など社会参加の取組みを推進している。

出典：香川県離島振興計画

【小豆島の移住者】

小豆島(小豆島町)では、人口減少及び少子高齢化が進行し、人材不足が課題となっているなか、島外からの若者の知恵とパワーで新しい地域おこしの風を吹かせてもらおうと、地域おこし協力隊員を採用し、小豆島の魅力に磨きをかけて、地域活性化に取り組んでいる(令和4年10月末現在11名採用)。また、定住人口の増加に向け関係機関と連携し、移住相談や空き家バンクの運営など基本的な移住施策に加え、移住体験施設や就労者向けシェアハウス、テレワーク拠点施設等を整備するなど、移住者の受入れを促進している。その成果もあり、年間移住者数は毎年100人を超えている。

出典：香川県離島振興計画

■年齢階層別・男女別の移住者数の推移（Uターン）

区 分	男				女				合計
	0～19歳	20歳～39歳	40歳～59歳	60歳～	0～19歳	20歳～39歳	40歳～59歳	60歳～	
平成29年度	4	30	13	9	3	26	6	9	100
平成30年度	2	32	8	17	6	31	14	13	123
令和元年度	5	23	6	10	8	15	8	8	83
令和2年度	4	16	11	9	3	17	8	5	73

【住まい政策課】

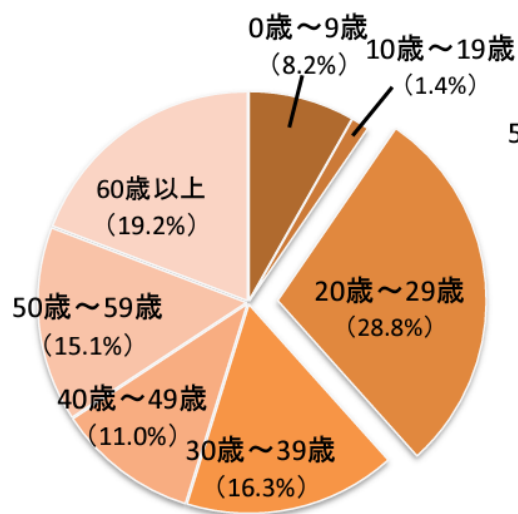
■年齢階層別・男女別の移住者数の推移（Iターン）

区 分	男				女				合計
	0～19歳	20歳～39歳	40歳～59歳	60歳～	0～19歳	20歳～39歳	40歳～59歳	60歳～	
平成29年度	18	38	12	11	22	61	19	11	192
平成30年度	18	33	15	7	16	37	10	9	145
令和元年度	7	27	18	4	10	48	15	5	134
令和2年度	7	30	15	9	6	32	13	3	115

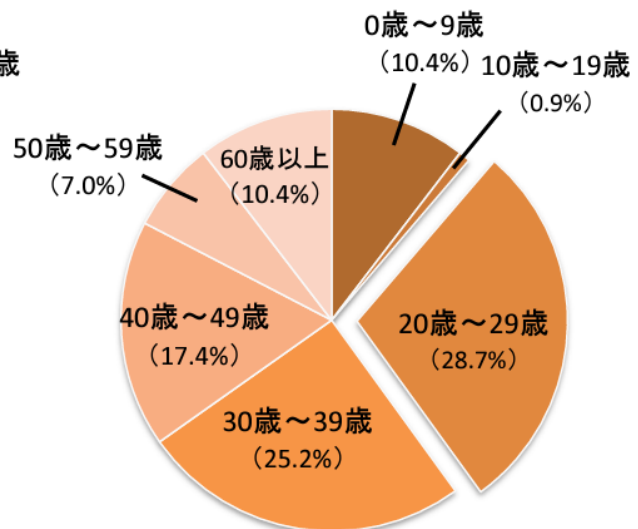
【住まい政策課】

■年齢階層別年間転入者数（令和2年度）

Uターン転入者数 73人



Iターン転入者数 115人



【住まい政策課】

出典：小豆島町勢要覧 2021 資料編

図 2.2-14 年齢階層別・男女別の移住者数の推移

3) 小豆島の観光客数

- ・小豆島の令和2年度観光客数は、687,520人（うち宿泊客数199,100人）であり、コロナ禍を機に総数の減少、宿泊客数の割合も減少している
- ・小豆島町の滞在人口は、香川県内が最も多く、県外では兵庫県・大阪府などの関西圏が多い
- ・宿泊客数の構成割合は、大阪府・兵庫県などの関西圏、東京都・神奈川県等の関東圏が多い。
- ・外国人観光客の旅程は4泊以上の長期滞在が多い傾向にある中、小豆島に滞在する日数は「宿泊なし」が半数、残り半数が「1泊2日」となっている

表 2.2-4 小豆島の観光客数の推移

■観光客数の推移(令和3年4月現在)

(単位:人)

年		観光客総数	宿泊客数
2011	平成23年	1,043,979	410,775
2012	平成24年	1,058,956	441,329
2013	平成25年	1,125,424	447,219
2014	平成26年	1,052,624	408,581
2015	平成27年	1,092,984	437,418
2016	平成28年	1,139,538	459,728
2017	平成29年	1,094,165	450,648
2018	平成30年	1,066,371	423,671
2019	令和元年	1,153,524	458,713
2020	令和2年	687,520	199,100

【小豆島観光協会】

コロナ禍を機に減少

出典：小豆島町勢要覧 2021 資料編

滞在人口の地域別構成割合 都道府県 → 市区町村

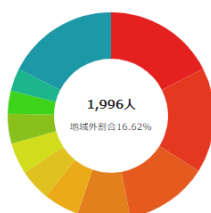
香川県小豆島町
2022年7月 休日 14時
総数 総数 (15歳以上80歳未満)
滞在人口合計: 12,009人 (滞在人口率: 1.17倍)
(国勢調査人口: 10,264人)

滞在人口 / 都道府県内



滞在人口/都道府県内ランキング 上位10件
● 1位 香川県 10,013人 (100.00%)

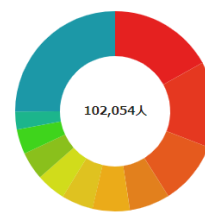
滞在人口 / 都道府県外



滞在人口/都道府県外ランキング 上位10件
● 1位 兵庫県 349人 (17.48%)
● 2位 大阪府 328人 (16.43%)
● 3位 岡山県 262人 (13.13%)
● 4位 東京都 164人 (8.22%)
● 5位 広島県 111人 (5.56%)
● 6位 京都府 99人 (4.96%)
● 7位 徳島県 97人 (4.86%)
● 8位 埼玉県 93人 (4.66%)
● 9位 愛知県 72人 (3.61%)
● 10位 愛媛県 71人 (3.56%)
● その他 350人 (17.54%)

居住都道府県別の延べ宿泊者数(日本人)の構成割合

香川県小豆島町
2022年



● 1位 大阪府 17,279人 (16.93%)
● 2位 東京都 14,207人 (13.92%)
● 3位 兵庫県 10,428人 (10.22%)
● 4位 神奈川県 6,693人 (6.56%)
● 5位 香川県 6,145人 (6.02%)
● 6位 埼玉県 5,213人 (5.11%)
● 7位 愛知県 4,881人 (4.78%)
● 8位 広島県 4,617人 (4.52%)
● 9位 京都府 4,070人 (3.99%)
● 10位 岡山県 2,984人 (2.92%)
● その他 25,537人 (25.02%)

【出典】
観光庁観光プラットフォーム推進協議会「観光プラットフォーム」
【注】
観光プラットフォームでは、日本全体の観光実態データのうち、1億3,000万回以上(2019年5月現在)のサンプリングデータ(店舗、国内ネット販売、海外向けサイトの閲覧)を抽出し、宿泊客数の実態データを提供している。
各データ・情報の提供元は非公開としている。
観光プラットフォーム推進協議会でのデータ提供を要請し、調査のデータが提供される場合がある。
宿泊客数が特定可能な一定以下の特定客については、「データ無し」としている。
データの抽出方法において、宿泊客データのサンプリングをもとに集計を算出していることから、属性別ごとの延べ宿泊客数(総数)の合計値が一致しない場合がある。

出典：「RESAS（地域経済分析システム）」（R5年6月28日利用）

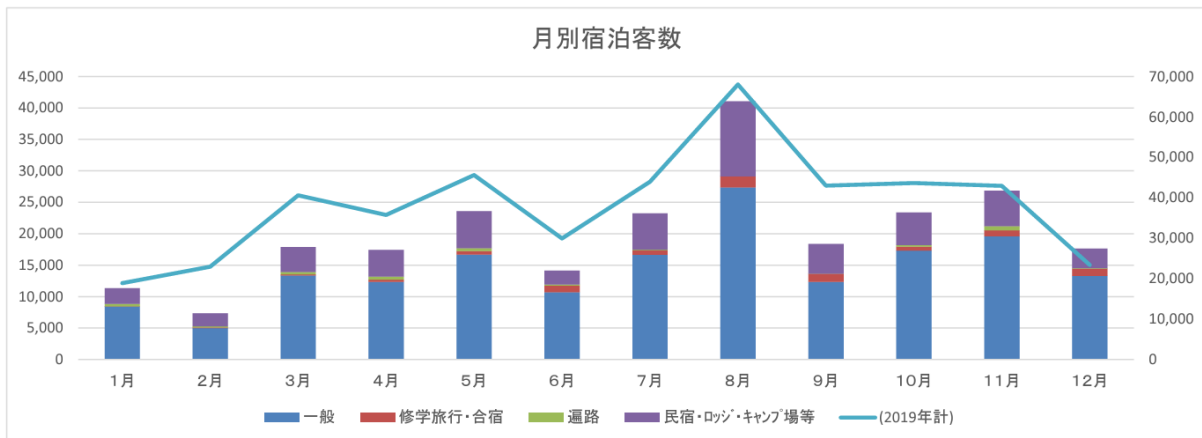
図 2.2-15 滞在人口の地域別構成割合

【観光動向】

表 2.2-5 宿泊客数の動向

宿泊客数は2021年比で46%の大幅増となったが、コロナ前の2019年と比較するとまだ47%減と非常に厳しい状況が続いている。コロナ禍の3年間で中堅旅館ホテルの廃業が相次ぎ、19年と比較して宿泊定員が約1000名減少したことも大きく響いている。また、スタッフの深刻な人手不足のため繁忙期でも満室ではなく7割程度に稼働を押さえなければいけない施設もあり、宿泊者数伸び悩みの一因ともなっている。民宿、ロッジ、キャンプ場等は2019年からの回復率が高く、コロナ禍のなかで密を避ける傾向があったことがわかる。

	2000	2005	2010	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
一般	284,722	320,338	307,892	319,084	346,690	345,121	320,964	353,413	155,234	120,582	173,090
修学旅行・合宿	5,912	12,256	21,226	24,245	28,379	23,239	25,094	21,797	5,217	5,887	8,662
遍路	47,899	29,973	20,191	14,490	8,037	9,906	8,176	6,740	1,403	1,064	3,242
民宿・ロッジ・キャンプ場等	69,647	63,344	78,875	79,599	76,622	72,382	69,437	76,763	37,246	38,305	57,176
計	408,180	425,911	428,184	437,418	459,728	450,648	423,671	458,713	199,100	165,838	242,170



昨年は8月の宿泊が大きく回復し、8月、次いで11月が最多というコロナ前と同様の傾向になった。しかし、1、2月の閑散期が大変厳しい状況は変わりなく、2月は8月の1/5の宿泊しかない状況となっている。

2022年12月別宿泊者数	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
一般	8,429	4,974	13,352	12,364	16,687	10,708	16,655	27,372	12,340	17,334	19,590	13,285	173,090
修学旅行・合宿	26	120	150	322	566	1,021	712	1,742	1,274	603	974	1,152	8,662
遍路	413	151	435	486	451	168	107	20	56	259	633	63	3,242
民宿・ロッジ・キャンプ場等	2,451	2,112	3,920	4,264	5,888	2,242	5,753	11,910	4,669	5,176	5,669	3,122	57,176
2022年計	11,319	7,357	17,857	17,436	23,592	14,139	23,227	41,044	18,339	23,372	26,866	17,622	242,170
(2019年計)	18,885	22,957	40,627	35,732	45,634	29,944	43,984	68,019	43,016	43,622	42,934	23,359	458,713

うち外国人宿泊者数1845人

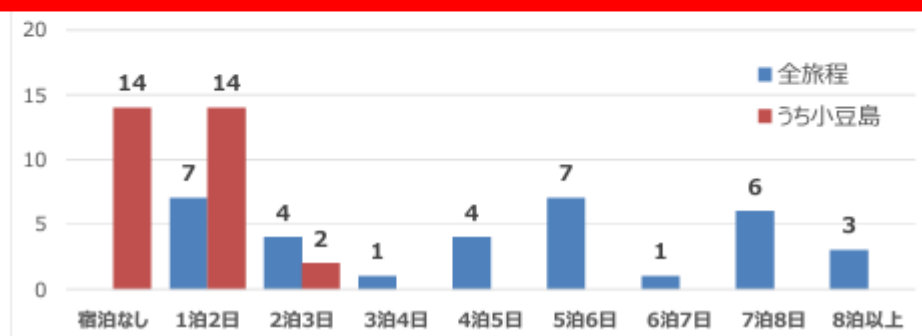
©小豆島観光協会 2023

出典：小豆島各港別乗降客等調査表

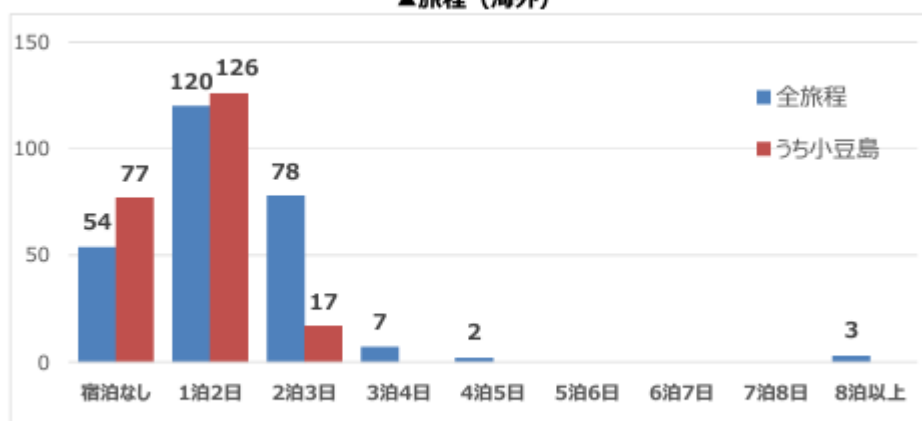
【外国人観光客】

(3) 旅程

- ・外国人観光客の旅程は、「1泊2日」もみられるものの、全旅程のうち4泊以上の長期滞在が多い傾向にある。一方で小豆島に滞在する日数は、「宿泊なし」が半数程度あるものの、「1泊2日」以上も半数程度みられる。
- ・また、国内観光客については、全旅程のうちほとんどが「2泊3日」以内と短いものの、こちらも半数程度が小豆島に宿泊している。（「1泊2日」が半数程度。）



▲旅程（海外）



▲旅程（国内）

出典）H30 観光客アンケート調査（小豆島地域公共交通協議会調べ）

出典：小豆島地域公共交通計画参考資料

図 2.2-16 旅程